ほっとファミリーは養育家庭の愛称です。

養育家庭（ほっとファミリー）
体験発表集
（平成27年度）

東京都福祉保健局少子社会対策部

「養育家庭（ほっとファミリー）体験発表集」の発行にあたって

都内には、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子供が約4,000 人います。

都では、このような子供たちが、実の親に代わり、家庭的な環境の下で生活できるように、養子縁組を目的としない「里親」（養育家庭）の普及啓発に努めています。

そして、多くの方に里親の制度を理解していただくとともに里親になっていただけるようにと、各区市町村と協力し、養育家庭体験発表会を開催しています。

この冊子は、平成 27 年度に開催された体験発表会において、養育家庭の皆さんに発表していただいた内容を要約し、冊子にまとめたものです。

里親になろうと思ったきっかけ、元里子の委託されていた時の思い、交流中の思いがけない出来事や慌ただしい日々の様子などが描かれています。

また、委託後の子供の赤ちゃん返りなどの問題や実子と里子の関係、里子を育てることゆえの悩みについても語られています。

しかし、そういった御苦労の中にも、子供が少しずつ家庭になじんで心が通じ合っていくのが実感でき、養育家庭をやっていて良かったという話や、悩んだ時に里親仲間や児童相談所の職員など周りの人から支えてもらった話など、里親(養育家庭)だからこそ味わえる子育ての素晴らしさにも触れています。

より多くの都民の皆様にお読みいただければ幸いです。

平成２８年９月

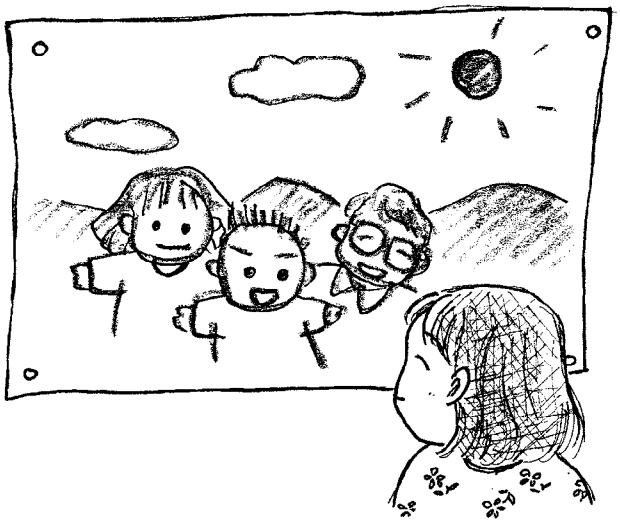
東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課長
中　澤　　知　子

目　次

1　ぼくのおうち ・・・・・・・・・・ 2
2　家庭で育つということ ・・・・・・・・・・ 4
3　私の実家、里親家庭に育って思うこと ・・・・・・・・・・ 6
4　「家族とは何か？」里親家庭で
　　生まれ育った私の考え ・・・・・・・・・・ 8
5　子どもの持っている力を信じて ・・・・・・・・・・ 10
6　妹と私 ・・・・・・・・・・ 12
7　T君のおうち♪ ・・・・・・・・・・ 14
8　支えあって生きていく事 ・・・・・・・・・・ 16
9　社会的養護に携わって ・・・・・・・・・・ 18
10　短期の委託を通して得た体験 ・・・・・・・・・・ 20
11　我が家のたからもの ・・・・・・・・・・ 22
12　たくさんの出会いに感謝 ・・・・・・・・・・ 24
13　子どもからの手紙
　　～子どもに寄り添い、共に乗り越える決意～ ・・・・・・ 26
14　我が家の6人の息子たち ・・・・・・・・・・ 28
15　4歳の僕と今の僕 ・・・・・・・・・・ 30
16　H君が来て、わが家は変わった ・・・・・・・・・・ 32
17　里親と出会えて… ・・・・・・・・・・ 34
18　2人の里子と出会いが与えてくれたもの ・・・・・・・・・・ 36
19　母性は育つ ・・・・・・・・・・ 38

養育家庭（ほっとファミリー）

体験発表会に、ようこそ！！



この体験発表集には、19組のほっとファミリーの方たちの養育体験がつづられています。

より多くの方々に、この養育家庭制度を知っていただき、ご理解と共感を得られることを、何よりも願っています。

そのことが、ほっとファミリーの方と、そこで生活する子供たちを支えることにつながるのです。

1　ぼくのおうち

【里母】

まず、現在の家族を紹介します。

主人と私と里子の４歳５カ月の非常に元気なやんちゃな男の子と、あとペットのミニチュアダックスフントが１頭と金魚１匹です。

里子を迎えて生活をともにしてまだ９カ月の本当に新米の里親です。

養育家庭になった理由は、一言でいうと、子供に恵まれなかったということになります。私ども夫婦にとりましては、夫婦２人の生活も十分幸せだったのですが、子供のいる生活もいいのかなとか、子供のいる生活も送ってみたいよねという思いから、インターネットでまず検索しました。夫婦で研修や実習を受けて、認定を受けた後、児童相談所から子どもの紹介を受けてエントリーをしましたが、なかなか選ばれず、今の子と出会うことが決まったのが昨年の６月、交流が始まって、初めて我が子に会ったのが８月でした。

乳児院で生活を送っていた子供に会いに行くと決まったときには本当にうれしくて、どんな子なのかと緊張も、不安な気持ちもあったのですが、心待ちにわくわくどきどきしていました。交流が始まって、会いに行く回数が週に３回、５回または６回と徐々にふえていきました。不安な気持ちをまだ上手に言葉で表現ができないので、自分の思い通りにならないときは、あざになるほど力いっぱいかじられたりして、しばらくはあざが消えずに、よくかまれていた記憶があります。どうしてこれまでに自分が嫌われて拒否されるのかと、その日の交流が終わると、自宅に帰宅するときに人目をはばからず道端で大きなため息をついたり、泣きたくないのですが、涙が出てきてとまらなくなったときもありました。

交流中は乳児院までの往復と、子供とのやりとりで本当に心身ともに疲れたのですが、そんな交流中を支えてくれたことが２つあります。１つは、子供の変化です。時間は非常にかかったのですが、ママと呼ばれたときには初めてのことでとてもうれしくて、抱っこと甘えてきたときには本当にうれしく思いました。にっこり笑顔を向けておしゃべりをよくするようになってくれたりして、本当に少しずつ距離が縮まってきたように思えたことです。もう一つは、乳児院にいらっしゃる里親支援の方と児童相談所の里親支援の方々の存在でした。子供とのやりとりで本当に困ったときだとか、わからないことやつらいときもアドバイスをもらっていて、相談に乗ってもらっていました。１人で抱え込まずに済みましたので、おかげさまで交流を続けることができました。

交流も４カ月が過ぎると、自宅外出、自宅外泊をするようになってきました。一般家庭の家の中は乳児院とは全く異なるので、さまざまな興味が出てきたようで、子供は、いたずら楽しいねと言って過ごしていたのですが、私はけがをさせてはいけないと、非常に緊張していました。早くこの子に信頼される人間になりたいとも思って焦っていたように思います。そして時間はお互いの距離を縮めてくれ、自宅に来ることに抵抗を感

じなくなってくると、乳児院に帰りたくないと話すようになりました。

自宅外出が始まったころから、御近所の方には徐々に事情を説明して、御挨拶させてもらっていました。今はとても温かく見守ってくださっていて、日常的に子どもを見かけると声をかけてくださっています。

子供にとってはなれ親しんだ乳児院での生活や大好きな先生方や職員の方から離れて、短期間に激変した生活に熱を出したり、下痢になったり、便秘になったり、夕方になると大泣きして長時間ぐずったり、夜中に頻繁にうなされたりしながら、本当によくここまで成長してくれたと思っています。

幼稚園生活が始まると、私どもが思っていた以上に子供は戸惑うことが多かったようです。その一つが先生の存在です。乳児院の先生方は生活の全ての面倒を見てくれる人であったのに対して、幼稚園の先生はそうではないということが理解できなかったようです。もう一つは、自分の家がどこなのかということです。自分の家が乳児院なのか、私や主人がいるところなのか、幼稚園なのかがわからなくなっていたようです。「僕のおうちがわからなくなっちゃった」とか、「僕のおうちはここ？僕のおうちはここじゃない」とか、何回も何十回もよく話していました。そのたびに私は、「パパとママと犬の〇〇〇がいるところがおうち」とやりとりをしていましたが、理解してくれていたかどうかはちょっとわからないところになります。

自分なりに頑張って通っている幼稚園での出来事は、うまくいかないことが多かったことや、自分の気持ちをうまく表現することが苦手なので、本当にぽつりぽつりと話をしてくれる程度だったのですが、今では、おしゃべりも、笑顔も、基本的生活習慣もできることが非常に増えてきて、私たちをとても笑顔にしてくれています。決して積極的ではない幼稚園生活も、時間の流れと、子どもの本人の努力と適応力に成長を感じていて、とてもうれしく思っています。

夫婦２人の生活は本当に劇的に変わりました。毎日が子供中心の慌ただしく忙しい家事に追われた生活です。主人は、養育家庭になろうと決めてから現在まで、本当によく協力してくれていると思っています。交流中は私より主人によくなついて、私は焼きもちを焼いていましたし、自宅外泊になって、子供に対して余裕がなくなっている私との間に入って、子供と一緒に遊んで子供を笑顔にしてくれたりしています。日々の私の愚痴も時間があれば聞き流してくれています。子供を迎えてまだまだの私には、主人の協力がとても心強いものになっています。また、週２日の仕事の際に、幼稚園から帰っての数時間を私の両親に面倒をお願いしています。毎日をばたばたと家事をこなして過ごしている私とは違って、ゆったりと過ごしてくれているとても優しいおじいちゃん、おばあちゃんとの時間は子供にとっても心地よいようです。

今後の課題は真実告知についてです。里子を迎えて９カ月ですが、乳児院の生活を子供は年齢的にも覚えていますし、ふだんのやりとりの中でもよく話してくれます。今後は年齢に応じた真実告知が必要だと思っています。

２　家庭で育つということ

【里父】

里親になる前、家内は子供はいらないということでした。ところが家内の親友に子供ができ「私も欲しい」ということになり、約束と違うとは言いましたが、私と結婚したためにお母さんになれないんじゃかわいそうだなと思い直して、長男を授かりました。

最初は自分の子供はかわいくて、よその子供はあまり得意ではなかったのですが、自分の子供を通してだんだんよその子供も好きになっていきました。自分の子供よりも小さい子供を見るとうちのもああだったなと思うし、ランドセルなどを背負っている子供を見ると、うちのも大きくなったらああなるのかなみたいな感じでした。子供が生まれたときに後光が差していると聞いたことがあるのですが、自分も親になって、ああ本当だと思いました。

小学校に入るぐらいまで長男に排便のしつけをするため、朝御飯を食べた後でトイレに座らせていたら、「お父さーん」と呼ぶんです。行ってみると「ご本読んで」とか「歌を歌って」とかで、最初は楽しくやっていたんですけれども、私もだんだん面倒臭くなってきて、「はーい」と返事をするだけになったら、声がかからなくなっちゃいました。どうしたかなと思ってトイレに入っていくと猛烈に怒って、ドアを閉めて「出て行って！！」って言われ、だんだん手がかからなくなってきたらちょっと寂しくなりました。もう一人子供が欲しいねという話にもなりましたが、長男を授かったときも高齢出産ということで、生まれるまでかなり心配した記憶があり、２人目が欲しいといっても、ちょっともう無理かなと思いました。そんな折、杉並の区報にあった体験発表会を家内が知りました。最初はよその子供を預かって一緒に生活したり、お風呂に入ったりするのは嫌だなと私は思ったのですが「一緒に生活して、一緒の御飯を食べるんだから、うちの子と一緒じゃない」という家内の言葉で、うちでも里親になれるんじゃないか思いました。

里子として迎え入れることになったお子さんは２歳ちょっと前の男の子で、かわいそうなことに生まれるときにお母さんを亡くし、また乳児院ですごくなついていた担当の方も退職してしまい、２歳になるかならないかで２人の人と別れなければならないというつらい経験をしていました。乳児院に週に何回か通って遊ぶところから交流が始まりました。最初は顔を出すときょとんとしていたのですけれども、だんだん会いに行くと体中で喜び、体中が笑っているという感じで迎え入れてくれました。施設の方の話によると、大体それくらいの年になると、自分だけ誰も会いに来ないということがだんだんわかってくると言っていました。うちに泊まりに来る期間も長くなって、１日から３日、１週間泊まってと馴染んでいって、我が家に迎え入れました。

最初に驚いたのが食事です。普通に御飯、おみそ汁、大きく盛ったみんなでとれるおかずを並べて、「さあ、いただきます」と言ったところ、見ているだけで全然手をつけないのです。「おいしいよ、食べなさい」と言っても食べない。みんなで食べればいい

んじゃないかと思って、僕たちは食べ始めたのですけれども、やっぱり食べない。どうしようかなと考えて、乳児院と同じに小さな四角いプレートに御飯やおかずを一緒に入れて、おみそ汁と麦茶というレイアウトで置いたら、食べ始めたということがありました。ものすごくたくさん、大人と変わらないぐらい食べました。あとで先輩の里親の方に「みんなそうだよ。好きなだけ食べさせればいいわよ」と言っていただいて、「ああ、そうなんだ」とほっとしたのを覚えています。

もう一つ、お風呂のときに自分が洋服を脱がされるのはいいんですけれども、一緒に入る大人のほうが脱ぐと、ものすごく泣きました。それも「怖い」と言って泣くんです。乳児院では大きなシンクで裸の自分を洗ってくれる係の人は着衣のまま、エプロンをしているんです。それがお風呂だと思っているので、大人が裸になるというのが怖い。僕たちの感覚で言うと、洋服の中から宇宙人が出てきたくらいの驚きだったんじゃないかなと思います。随分時間がかかって平気になりましたが、施設でお子さんをお風呂に入れるときは、大人も一緒に裸になってあげてほしいなと願います。

それから、抱っこをすると胸をそらして距離をとるんです。お祭りなんかに行って眠いはずなんだけれども、距離をとっている。子供のほうで受け入れていないのかよくわからないのですが、随分時間がたって「寝ていいんだよ」と言ったら、頭をつけて寝たときはすごくうれしかったのを覚えています。お昼寝も長男のときはそばでなでたり、歌を歌ったりで寝かせたのですけれども、そうすると寝ないんです。ベッドで落ちないように柵をして一人にすると、最初は遊んでいてそのうち寝ちゃうという感じでした。

幼稚園に入るようになって、その子の名前が出ない日がないぐらい大好きなお友達ができて、楽しく通っていました。小学校でもお友達もどんどん増えて、男の子も女の子も家に遊びに来たり、遊びに行ったりしています。オセロ・将棋部に入っていて、最初は簡単に負かしていたんですけれども、最近すごく強くなって、本気を出しても３回に１回は私が負けてしまいます。また、小学校４年生の時には２分の１成人式というのがありました。生まれたとき何グラムで何センチ、生まれた時や七五三、幼稚園や小学校に入ったときの写真等で過去を振り返るというものでした。10年という短い人生の過去を振り返るよりも、40年、50年、60年という大きく広がっている未来に向かった成人式のほうがいいんじゃないですかと先生に相談をして、そういう形でやって貰いました。

お試し行動とかが全くなかった。あったのかもしれないけれども、私のほうではそう受けとめてなく、里子と里親というスタンスではなく、うちは血がつながっていないだけで自分の子と一緒。悪いことをすれば叱るし、いいことをすれば褒めるしということで育てていたので、わからなかったかしれません。

自分の本当の家庭で生活できないお子さんが4,000人近いるということですが、食事やお風呂、昼寝にしろ、乳児院の生活と実際の家庭とはものすごい隔たりがあります。里親ってそんなに大変じゃなくて、楽しいことがたくさんあります。一人でも多くのお子さんが家庭で育って、成長できればいいなと思っています。

3　私の実家、里親家庭に育って思うこと

【元里子】

私は産まれてすぐに乳児院に入りました。親の記憶は一切ありません。それでも自我がある時期には、お母さんに会いたい気持ちは芽生えていました。でも会えずに３歳頃に児童養護施設に行き、小学校４年生まで過ごしました。親元で暮らす子供が一番大事な時期、親の愛情を一番得る、抱っこしてもらい、大好きだよと言ってもらう時期に私は施設に入ったのですが、私はその施設に入って良かったと今は思っています。その後、里親さんの家に小学校５年生になる時に行ったのですが、基本的に話はしない、余り返事もしない状態でした。私の中ではただ養ってもらっているだけみたいな関係性でした。先に来ていた子供達はその里親さん達のことをパパ、ママと呼んでいたのですけれども、私はおじちゃん、おばちゃん。私にとってのママは施設の先生。お母さんは産んでくれたお母さんです。里親家庭の人は育ててくれているおばちゃんでしかなかったのです。

結局、18歳まで里親家庭で育ったのですが、里親さんと一番関わらなければいけなくなった時期が高校受験をする時でした。里親さんが行きたい所に行きなさいと一緒に説明会に行ってくれて、私は授業料が高い私立の高校に行くことができました。ちょうどその時期に里親さんと児童福祉司を交えて、私の戸籍謄本を全部含めて見せてもらい、自分のお母さんが何歳で、自分には兄弟がいたとか、そういう情報を初めて知りました。兄弟がいるというのが一番の衝撃で、そんなことは一回も聞いたことがなくて、その兄弟が私とお母さんは一緒なのですが、父親が違うとか、内部事情を知り、それでも兄弟はお母さんのもとで育っているのに、私は何でここにいるんだと思った時に、経済的な理由が一番だったというのを聞いて、経済的な理由じゃしようがないかなと、それなりに考えることができた年齢だったので、そう思ったのです。

また、私はずっと小さい頃から戸籍名のままでいるのですが、特に里親家庭に変えたいとも思いませんでした。どこかで親とのつながりが消えたくなかったのかなと思いました。別に会いたいとは思わないのです。でも、お母さんとかお父さんが今どんな生活をしているのかとか、そういうのはちょっと気になるというのもあって、どこかで里親家庭さんを親だと思っていても、やっぱり産んでくれた親のことはすごく気になると思うのです。なので、どこかで踏ん切りをつけて、いろいろな情報を知ったりだとか、一度会えるんだったら会ってみるのか、会うことがメリットなのか、デメリットなのか、その子によっては違うと思うのですけれども、どこかで気持ちに区切りをつける場所が必要なのだと私は思いました。私にとってのその区切りは中学３年生の親のことを知った時で、その区切りはついてからは、ずっとおじちゃん、おばちゃんと呼んでいた里親さんのことをパパ、ママと呼んでいます。

高校に入り、また進路の選択が迫られてきました。18歳という措置解除の時期が迫る中で、私は看護師になりたいと思って、大学は授業料が専門学校の約10倍近くはかかるので、資金計画を立て高校１年生からアルバイトはしていたのですが、どう考えても足

りないので、奨学金のことを色々調べました。私はそれで２、３個の奨学金を借りました。それを借りるためにも自分の過去を振り返ったり、作文を書くのが本当に苦痛でしたが、そこで自分の過去を振り返ることができたのは良かったと思うのです。

自分の過去を振り返って私はすごく恵まれているなと思いました。まず乳児院で育った時には担当してくれた方がいて、施設に行った時には私が母だと思って関わった施設の担当保母さんがいて、その周りの職員さんがいっぱいいて、里親家庭に行った時には里親さんや実子の方もいて、生活していく上で小中高と沢山の先生とか友達も係わってくれている中で正直言って普通の子と何が違うのかなと思った時に、色々住む場所も変わったけれども、最終的には普通に先生と友達と好きな人ができたり、学校にも通えました。かわいそうな子と思われるのが私は一番嫌なのです。私は今こうやって大きくなって、自分のやりたいことをできる環境に行けたというのは、かわいそうなことでも何でもなくて、むしろすごく恵まれていると思っています。大学も卒業して、看護師になって働くことができてという環境で、その手助けをしてくれたのは里親さんでした。

施設と里親家庭の違いは何だろうなと思った時に、施設だと何十人も子供がいたりして、目がその子一人に向いていかない時もあると思うのです。施設は18歳になって措置解除になった後はその施設を出て一人でやっていかなきゃいけない。今、私は仕事でつまずいたりするとすぐに実家に帰るのです。その実家と呼んでいるのも里親家庭の家なのです。帰る家があるというのがすごく大きくて、施設でも顔を見に帰ったりはするのですけれども、そこで自分を迎え入れてくれる存在がいるのは大きいと思いました。それは普通の家の子供も一緒だと思うのですが、自分を受けとめてくれて、その時その時に一生懸命かかわってくれた人がいるのは私にとってはすごく財産だなと思います。

里親家庭はその子供を育てる分のお金が家に入って来ますがそのお金だけで子育てはできないと思ったのです。私はどれだけ里親さんにお金を払ってもらったのだろうと思って、大学生活をやっている間も正直、バックアップしてもらって、それで卒業まで行けたりしたので、行政の方に言いますが、お金をもうちょっと上げてくださいという思いもたまにあります。

また、法律的には二十歳から大人と言われる中で、18歳から一人でやっていかなきゃいけないという措置解除の若者たちがその２年間の中で苦労する面のほうが多いと思うのです。自分でお金のやり方も余りよくわかっていないし、どう生活していけばいいのかわからない。手続の仕方もわからないとか、その中でどう支援していくのかというのが本当に大事かなと私が大学生活の中で思ったことです。その辺のバックアップ的な制度もできるといいなと私は思っています。決して施設にいるから悪いというわけではないし、里親家庭が全ていいと思うわけではないのですが、子供がきちんと成人して社会に出ていけるまでのフォローを地域の皆さんと里親家庭、施設、児童相談所、行政の方々とみんなで一人でも多くの子供が成長していける環境を作って頂ければいいなと思っています。

４ 「家族とは何か？」里親家庭で生まれ育った私の考え

【実子】

私は現在、大学４年の22歳です。私が２歳の時に両親が里親を始め、約20年間、里親家庭で育ちました。これまで20人余りの里子が家を出入りしてきました。今は２人姉妹の実子(私と19歳の妹)、６人の里子(小学生２人、中学生１人、高校生３人)が共に生活してます。里子は、年齢も性格も事情も異なり、家はいつもにぎやかです。だから私は、里子との大人数の生活も、人が突然きて家族になり、いつか出ていくことも当たり前という感覚を持ってます。新しく里子が来る時は、お帰りという気持ちで接し、里子が自立のため家を出る時も、行ってらっしゃいという気持ちで送り出します。住む場所は違っても家族であることに変わりないと思うからです。

私の妹は小さい頃、同年代の里子とよく衝突していました。妹は、来たばかりの里子が実の子のように自分の両親に甘えるのが嫌で、いつも「あなたの本当の親は私の両親じゃない」と心の中で思ってたそうです。でも、長い時間一緒に生活しているうちに、家族と一員と思えるようになり、そんな嫉妬はなくなったそうです。今思えば、小さい頃の嫉妬は一般家庭の兄弟姉妹のケンカと同じです。一緒に生活している人はみな家族なので、その中心をお父さん、お母さんと呼ぶのは当然で、それを５、６人で取り合えば、ケンカもするはずです。

両親が里子に長時間かかわっていたりして不満が重なると、私達は「里子なのに何だ」と感じることもありました。逆に里子も、私達実子とケンカした時など「実子だからって何だ」と思うことはあったはずです。でもそれが本当の気持ちでないのは自分達が一番わかってます。ですから、ケンカしても、気が合わないと感じても、私達が家族であることに変わりなく、翌日には普段通りに仲のいい生活に戻れます。

その中でも、里親家庭ならではの不満を感じたことがあるとすれば、実親とつながりがある里子に関連することです。クリスマスプレゼントが一つ多かったり、お父さんと面会しておもちゃを買ってもらった、という話を聞いたりすると「何だ、この子は親が２組もいるんだ、ずるい」と思いました。私たち実子は自分の親を半分里子にとられているようなものなのに、向こうは２倍、２分の１と２倍で不平等だと屁理屈を言ったこともありました。

もっとも、不満を感じたことあるのはこの２つくらいで、その不満もごく小さなものでした。むしろ、このような小さな事で不平等だと思ったのは、普段から両親が実子と里子を平等に扱っていたからです。私の父は小さい頃の私や妹に対し、嫌がられても泣きわめいてもしつこく構う、という変わったかわいがり方をしていました。最近は小学１年と４年の里子に同じことをして、同じように嫌がられています。私はその光景を見て、これが親子なんだなとしみじみ感じます。嫌われることを恐れずかわいがるなんて、本当に愛していないとできません。また、父はこれを意識して平等に扱おうとしているのではなく、一緒に生活しているうちに自然に親子になっていったのだと感じています。

私と里子はこのように育ってきたので、兄弟姉妹のような関係が築けました。年上の里子を「お姉ちゃん」や「お兄ちゃん」と慕って、よく遊んでもらいました。同年代の里子とも小さい頃にはよく遊び、ケンカも沢山しましたが、成長してからはケンカも減り、兄弟姉妹のような友達のような関係になりました。昔、仲が悪かった里子とも今では、誕生日を祝い合い、一緒に買い物に行き、クリスマスパーティーもします。また、小学１年と４年の子には共通の話題を見つけて私から話しかけたりするほどかわいがっています。このように、気兼ねなく話せる兄弟姉妹のような、友達のような関係を、どの年代の里子とも築いており、私にとってはこれらの関係全てが家族なのです。

今、私は家族法のゼミに入っています。「家族とは何か」というテーマについて勉強すればするほど、家族の定義は人それぞれだということに気づかされます。法律上の家族の定義も、実は決まっていません。血縁関係は大事な一つの要素ですが、一緒に暮らしていることや、子供と信頼関係がある方が重要であるという解釈が、法律においても今は一般的になっているそうです。そんな話を聞いて、「一緒に生活しているのが家族である」という昔からの自分の考え方は、合っていたんだと思います。

最近、夫婦別姓、同性結婚、事実婚など、家族関係が多様化し、色々な家族の形を受け入れられる方向に人々の意識も変化しているようです。そんな今こそ、血のつながりのない、子供同士で名字が違う私達のような家族も一つの家族のあり方として知ってもらい、受け入れて欲しいです。私達も間違いなく本当の家族、本当の親子です。

家族法を勉強する中で家庭的な養育の大切さを学ぶ機会もありました。昨年、ゼミの研修でハワイに行った際に、現地の裁判官が「ハワイには親が育てられない子供が入る施設はなく、全ての子供が里親か養子縁組を目指した里親のもとに行く」と教えてくれました。その先生は、家庭的養護を絶対に受けさせたいと言っていました。これを聞いて、私は驚きました。私の家は養子縁組を目的としていない里親ですし、私も何回か行ったことがある児童養護施設も悪いところではないと思います。しかし、国際的に見れば子供に十分な家庭的な養護を与えられない日本は非常に深刻な事態らしいです。

確かに、施設出身の里子は施設の生活を楽しそうに話しますが、施設の職員は親代わりではあっても、親とは別物という感覚があるように感じました。また、里親家庭では手放しに甘えられるお父さん、お母さんがいて、自分の帰る家、自分の部屋、ベッド、タンスなど、施設のものではなく自分専用のものがあります。そう考えると、自分の居場所を見つけるという意味で、やはり子供にとって家庭的養護が非常に重要だということがわかりました。

里子を見てきた身としても、家族法を学んできた身としても、我が家の様な家族の形、親子の形もあるということを色々な方に知って欲しいです。私の家庭も、珍しい家庭としてではなく、数多くある普通の家庭の一つとして社会に受け入れてもらいたいというのが本音です。そして、より多様な家庭を認め合って、それぞれにとって素敵な家庭を築くことができるような社会を望んでいます。

5　子どもの持っている力を信じて

【里母】

里親をやるこつはないというか、自然体でいるのが一番のこつだということがわかったんです。初めのときはこっちも初めてだから一生懸命構えてしまうし、頭で考えちゃうわけでしょう。家がないとか、親がいない、かわいそうな子が来るからああしてあげよう、こうしてあげようとかと一生懸命考えるわけです。でも、うちに来るまでにその子たちは私たちが想像する以上に波乱万丈の生活をしてきているわけですから、すぐに合うわけはないですよ。

一番初めの子は５年生だったのですけれども、うちに来るまでに私が知っているだけでも６カ所も居場所が変わっていたんです。自分の家から親戚にたらい回しとか、施設とか。だから、口癖が「大人は誰も信用できない」という子だったのです。そんなのを聞いちゃうから、なおさら一生懸命やってあげようと思ったんだけれども、こっちが思うのと向こうが求めているものとがすれ違っていたわけです。今思うと本当に何でもない、こつのないこつというのかな、ごく自然なあれがよかったんだなということが後からわかったんです。変な言い方ですけれども、小さい子、赤ちゃんはかわいいとみんな普通思うけれども、かわいがられて初めてかわいくなるんだなと思ったんです。彼はかわいそうだけれども、かわいがられたという思い出がなくてきたわけです。そうすると、顔形はかわいいんだけれども、何かかわいくないんですね。ただいるだけでむかつくみたいな感じがしていたんですよね。

彼も散々うちにいたときに悪いこともしましたし、私たちもとても看られないということで、中３のときに手放して、施設に戻ったんです。こんな子と離れられて本当に私はせいせいするかと思ったんですけれども、そのとき初めてその子をかわいいというか、いとおしいというか、かわいそうというか、そういう気持ちが出てきたんです。このままにしちゃいけない。あの子は「大人は誰も信用できない」と言っていたけれども、このまま私たちが見放したら本当に誰も信用できなくなっちゃうんじゃないかなと思って、思い上がった気持ちじゃないけれども、「誰かが、あんたのことを見ている人もいるんだよ」ということを教えたくて、その子が施設に入るときに一緒についていったんです。入所の手続きを終えて出てくるのを待っていたら、私のことを見て、「いてくれてたのか」みたいな顔をして、「俺はＡ（里親名）の家にいてもよかったのかな」とぼそっと言ったんです。それで、つれて帰りたくなったけれども、でも、ここで頑張りなさいということで、別れて、そこの施設にお願いしたんです。そのままにしていたら本当に誰も信用できなくなるんじゃないかと思って、手紙を出したんです。そうしたら、物すごく変な字で返事が来たんですけれども、「お元気ですか。僕は元気じゃありません」と書いてあったんです。でも、一生懸命また手紙を出したり、面会とか運動会とかせっせこせっせこ行ってやっていたんです。それで、そこにいるうちに彼は、修学旅行に行くことになって、もう離れちゃっているから関係ないのにお土産を送ってくれたんです。

一緒にいるのにお土産を買ってきてくれたら義理とかということもあるけれども、もう関係なくなっちゃった、離れているのに送ってくれたということは、彼が本当にお土産を買いたいという気持ちになったというか、そういうことをしたいと思う人の存在を認める心の余裕ができたのかなと思ってちょっとうれしくなったんです。

高校受験をすることになり、施設とは遠く離れたうちの近くの高校を受けたんです。それで受かって、これは「帰りたい」というサインかなと思って、彼をもう一回引き取ることになりました。そのとき彼は私が送った手紙の束とお守りをちゃんと持って帰ってきてくれて、戻ってきたときにはむかつくオーラがすっかり消えていたのです。まだ口癖があったんですけれども、「大人は今でも信用できない。ただし一部を除いて」と変わったんです。

今思えば、彼も本当は大変だったわけですね。彼は大人は誰も信用できないという気持ちで来て、うちに来てもまたここからじきにどこかに移されるんだろうと思っていたというんです。こっちはこっちで一生懸命やっていたけれども、とにかくすれ違って、お互い疲れちゃって、離れちゃったわけですけれども、でも、一回離れたことによって逆に心が通い合ったというか、そういう感じになったと思うのです。

戻ってきてからは、彼もうちの息子みたいな感じになり彼がもう私たちのかわりみたいな感じでやってくれて、彼がいたからここまでやって来られたという感じなのです。

特にうちは大きい子が来るから、今度は自立ということも考えなきゃいけないです。とにかく社会に出て、頼る人もいないから自分の力で生きていくんだよということをずっと教えるというか、言い続けていたし、先輩を見てもそうだから、みんなそういう感じで、自立するときにごちゃごちゃ言わないで、ちゃんとみんな育っていったんです。

８人か９人ぐらい自立させましたけれども、みんなに会ってみると、本当に自慢なのは、みんな自分の力で生きているし、「僕はかわいそうな子です」というような影を引きずっている子はいないのです。近所のお祭りで集まって、みんなでおそろいのはんてんをつくってとか、そういう感じでやっているので、義兄弟みたいな感じで育ってよかったなと思っています。今度は自分たちみたいな子たちが集まれるような場所をつくろうとそういう家をつくりかけています。ですから、うちはちょっと里親さんというイメージと違うかもしれないのですけれども、小さい赤ちゃんからずっと育てていく里親さんがあっていいけれども、うちみたいな大きくなって、自立間近な子を預かって、社会に送り出す。そういうとぼけた里親さんもあってもいいかなと思っております。

みんな自慢の息子なんですけれども、周りが男の子だけの中にお母さん（里母）だけが女と言う、特別な存在が認められたのでよかったなと思っているんです。普通の里親さんのイメージとちょっと違うかもしれないのですけれども、やっててよかったと思っております。

６　妹と私

【実子】

私は兄が３人、弟が１人、そして里子として暮らす妹が１人の６人兄弟の４番目として育ちました。父は子供とよくかかわる人です。休日になるとプールや動物園などに出かけていき、一緒になって遊んでくれる存在でした。母はよく話す人で、家族のルールとして、食事中テレビは禁止で、小さいころから夜御飯は必ず家族全員で食べ、それぞれが学校であったことを話し合うという時間になっていました。今もやっています。大家族ということもあって、毎日にぎやかで、私は本当に恵まれた家庭の中で育ちました。

そんな我が家へ里子として妹が来たのは、今から12年前の私が10歳で、妹が６歳のときです。両親が里子として妹を引き取ろうといつどのようなタイミングで私に話したのかは正直よく覚えていませんが、家族みんなで話し合って引き受けることを決めました。ただ、当時の私にとっては、両親の意向に従うだけだったと思います。また両親は妹が欲しいという私の言葉に後押しされたという事実を最近知りました。しかし、突然６歳の妹ができ、お姉さんのようにかかわってあげてねという親からの期待は、当時の私には重荷になっていたように感じますし、友達にどう説明してよいのかわからず、誤解を生んだこともありました。

妹は引き取られた当初、全く話さない子でした。何をしてあげても無表情で、毎日同じ部屋で寝ているのに、彼女が何を考えているのか全くわからない日々が続きました。時間をかけて接する中で少しずつ話すようになってからは、一気に話すようになり、本来は非常に明るい子だったことに驚きました。冗談を言ったり、踊ったり、歌ったり、このころは少しでも妹が笑っていることに私は喜びを感じていたように思います。

しかし、私たちを試す行動もふえていきました。私の中で一番つらかった経験は、外出中に妹が少しでも機嫌を損ねるとその後の予定が変わってしまったり、家族がみんな不機嫌になったりするということです。私にとって家族で出かけるという時間は最も楽しみで、また最も好きな時間でありました。その時間が彼女の思い一つで壊されていくことをどうしても受け入れることができませんでした。

私が小学生のとき、私の誕生日を祝うために家族で外出したときがありました。そのときも途中で、妹がなんてことないことで機嫌を損ねて行きたくないとその場から動かなくなりました。無理矢理レストランへつれていっても、今度は食べたくないとメニューを投げつけました。父も母も彼女の行動に怒り、レストランの外につれ出して叱りました。せっかくの私の誕生日を台なしにされた気分でした。本来、メーンは私のはずだったのに、両親の気持ちが今、全て彼女に注がれているという気持ちになり、私の中で、なぜ彼女はうちへ来たのかという気持ちでいっぱいだったと思います。

妹は一度機嫌を損ねると、家の中では押し入れに引きこもり、外出先では動かないという行動を繰り返しました。いつもきっかけは些細なことでした。着る服がわからないや母の一言が気に食わないなど、私にとってはどうでもよいことばかりなのです。しか

し、彼女の気持ちはそういった少しのことで不安定になってしまうことを長い時間をかけて理解し、今もなおこの行動と向き合っています。

私が高校生、妹が小学校高学年から中学にかけて、我が家にとってとてもつらい時期がありました。妹が私の物を勝手にとってしまったり、お金を持っていってしまったり、習い事をさぼったりと問題行動が続くようになりました。しかし、毎日どこか不機嫌で、前のようには話さなくなり、母には突っかかり、話しても心が通じ合っていないことに私たち家族は非常に苦しみを覚えました。この期間は何年間という長期間続き、毎日のように父や母の叱る声が我が家にはあり、夜、両親が話し合っている姿に私自身も疲れを覚え、正直、何度も彼女がうちへ来たことを悔やむ時期がありました。

しかし、私自身が反抗期であったこともあり、彼女への不満が両親への不満へと変わりました。大好きだった家族という存在をひどく嫌うようにもなりました。私の両親は里親に加えてショートステイにもかかわっており、１泊や１週間単位で子供を預かっていました。高校から帰ると、本当の家族ではない人のほうが多いときがあり、ここはどこで、自分の家はどこへ行ってしまったのだろうかと感じたこともありました。実子として小さいときから恵まれた家庭環境で育ったからこそ、家庭や親に問題を抱え苦しんできたつらさや痛みを理解できず、私自身も非常に苦しみました。

しかし、この問題も時間をかけて少しずつ私の中で砕かれ、今も砕かれ続けています。全てを理解することはできませんが、寄り添うことはできるのかなと今は感じています。

妹の問題行動はクラス替えという環境の変化で、少しずつ減っていきました。現在、高校２年生になった妹はかなり落ちついた状況にあります。

ここまでつらい経験ばかりを話してしまいましたが、現在の気持ちをお話すると、私は両親が妹を引き取ると決断したことや、どれだけつらい状況が起きても妹を手放さずにともに闘い続けたことを本当に誇りに思っています。同時に、私たちのことを信じ続けてくれた妹にも本当に感謝していますし、父や母はいろいろなところで支えられてきたと思います。さまざまな人に支えられてきました。そのことも本当に心から感謝しています。

妹は来年18歳になります。まだまだ課題の多い彼女ですが、２人で話すと意外と自分のことや両親のことを考えていることに驚くことがあります。昨年、母が体調を崩してから、母の体調を気づかい、気を遣えるようにもなっています。妹の成長は私にとって非常に大きな励ましになっていることにも気づかされました。少しでも妹の成長につながることが私たち家族とかかわる中でできていたなら、本当に幸せなことだなと思います。

正直、私の中で養育家庭はつらいことのほうが多かったと思いますが、この喜びはつらさを一気に吹き飛ばすほどの力があることを思います。

来年度にはひとり立ちをする妹ですが、残された時間を大事にして、彼女とこれからもかかわり続けたいと思います。

7　Ｔ君のおうち♪

【里父】

家族は、里子(4歳)、里父母、実子(7歳)の4人家族です。

Ｔ君は3歳で家に来ました。児童相談所や乳児院から話を伺っていましたが、生まれた時に斜頸で、なかなかハイハイなどできず、発達に少し遅れがありました。喋らないし、意思の疎通ができないけれど、会った時にすごくかわいい顔をするんです。毎回会う度に、この子が来てくれたらなと思っていました。去年12月から家に来て、まだたった1年しかたっていないです。

里親を考えたのは、2人目がなかなかできない頃、養子縁組のニュースを見て、こういうこともあるんだなと思い、体験会に伺ったのがきっかけです。夫婦は他人だけれど永く住んで家族になるのと同様、血の繋がりは関係ない形でも例えば15年とか一緒に暮らしていたら家族になるのではないかと考えました。初めは養子縁組に申し込みをしたのですが、研修で、千人の子供が18歳まで一般家庭を知らずに施設で育ち、里親宅で生活できる子供は全体の1割という実情を知りました。一番優先しなきゃいけないのは子供じゃないかと考えるようになり、養子縁組里親に認定された翌日、切替申請。研修も受け直し、養育家庭里親となりました。実際、委託が決まってから、とにかく毎日ばたばたです。里子が来たからか、子供がいきなり2人になったからかわからないのですが、もう毎日がバタバタの連続でした。

初め、Ｔ君は言葉が殆ど喋れなかったので、何を言っているかわからない。ちゃんと歩けないので、幼稚園とかに行けるのだろうかという心配もありました。一番困ったのが意思の疎通がとれなかったことです。幼稚園に行き始めた頃、噛み癖があって、今も完全に治っていないのですが、これをやっちゃだめと言っても、それが通じない。噛んでないよと言うだけです。意思の疎通ができないのは非常に大変で、ママはすごく苦労したと思います。もう一つ、誰でもママ。多分、施設にいたからかもしれないのですけれども、ちょっと年上の女性を見るとすぐ寄っていき、手をつなぐという行為をし始めます。初めの頃は関係を作るのに困難な状況でした。

また、実子も、突然ママをとられたような状況で、チック症みたいなこともあったのですが、良かったことはお世話できる対象ができたこと。両親から自分に言われていることを自分が弟に言い、弟が真似して自分に言ってくるというようなことが、彼の成長にとってすごくよかったかなと思います。第一子を育て、結構自信があったのですが、実際は意外とわからない問題に直面したようなこともありました。

その後、幼稚園に通わせて約半年。児童相談所等に相談し、発達遅れの子のトレーニングの学校も週２回通うようにしました。結果、声が出てちゃんと喋れるようになり、今は１日300回位、ママ、ママ、言っています。半年間で、本当にびっくりするぐらい伸びました。少し前までリビングに、トランポリン、鉄棒、療育の場にあるものを全部家で揃えた感じでしたが、全然飛べなかったトランポリンが飛べるようになったとか、ち

ょっと喋れたとか、毎日の生活の中で少しずつでも返ってくる。すごくフィードバックを感じ、よかったと思います。一番よかったなと思ったのが、ついこの間の運動会です。初めから最後までママと離れてちゃんとできることをやってくれて、私よりもママの方が驚いていて、子供が帰ってきた時にわんわん泣いているんですよね。こんなにできるようになったと。そういった意味では、毎日のちょっとした生活の中で愛情はお互いに湧いてきているのだなと思いました。幼稚園、近くに大好きなお友達、お兄ちゃんというライバルがいつも家にいる普通の環境を提供できているのも、一番大きいかなと実は思っています。10月頃に実母さんが希望されて母子が会ったんです。やっとママ、ママと呼んでくれるようになったのに、何で今、と内心思っていました。将来的に自分のルーツ、Ｔ君が本当のお母さんを知っていた方がいいのかなと思っていたのですが、やっぱり複雑です。でも却って、この子が一緒じゃないと困るんだという実感はすごく感じましたし、そういった出来事が色々あったことで、情はやっぱり血の繋がりではないんだと思いました。もう一つ、地域の催しなどは全く参加しなかったんですけれども、子供ができたり、里子が来たりして、周りはどうだろうとか、やっぱり気になる。聞きに行きたくなっちゃう。そういった意味では、いろいろ参加するようになりました。里親サロンとかにも参加して、先輩方の話も聞くようになりました。里親になって周りに聞いたり、関係してきているきっかけで、周りの社会に溶け込んでいくような気がしています。そういう温かいものがコミュニティーにあるというのを実感してきているような気がします。あともう一つは、夫婦共通の話題が完全に子供の話です。毎日、疲れて寝ちゃうぐらいまで子供のいろいろな話が尽きないです。子はかすがいと言いますが、子供の話というのは尽きなくて、多分いつになっても喧嘩しながら仲よくやっていくんじゃないかなという気がします。

最後に、里子を家庭に迎えてこの１年はすごく大変でした。その分、ものすごい喜び、気づき、あと気楽に周りの人達に聞いたり相談するということが増えて、それが繋がりになってきたような気がします。実は里子が来たらこんなことをやりたいぞとお父さん的に思っていたことがあるのですが、発達遅れがあったので、殆どできていないです。ですから、もう少し成長したら、いろいろ楽しいことなどを体験させてやりたいと思っています。最後の最後ですが、Ｔ君が来てからいつの間かできて、いつも帰り道に歌っている曲があります。「お家に帰ろ～♪　Ｔ君のお家～ お家に帰ると～ ママ(パパ)が待ってるよ～」というのを、駅から10分位、手をつなぎながら歌って帰ってくるのが家の習慣になっています。これはＴ君も大好きな歌で、待っているお家があることとか、待っている人がいることをわかってくれたらいいなと思っています。逆に、帰ってくるのを待っていられることができるお家というものを作っていけたらなと。いつか巣立っていくと思うんですけれども、いつでも戻ってこられるような環境を持っていけたらなと思っています。

８　支えあって生きていく事

【元里子】

私は、小学２年生の時、里子としてＯさんの家に来ました。その前は乳児院、児童養護施設という形で進んでいきました。特に施設ではたくさんのお友達や先生と一緒に生活し、とても楽しく過ごしていたのを覚えております。

しかし、小学生になると入学式や授業参観で沢山の親が見に来ます。それに対し疑問を抱くようになりました。私はなぜお父さんやお母さんが見に来ないのだろう、なぜみんなのようにマンションや一軒家に住んだりできないのだろうとずっと思っていました。学校から学園までの距離しか自由に歩くことが出来ませんでした。でも、土曜日になると120円を持って近所のスーパーに好きなお菓子を買いに行くことができて、それだけが私の楽しみでした。また同時に疑問もあり、道路で自由に自転車に乗っている子供達を見てどのような生活をしているのだろうと不思議に思っていました。

そして、小学校２年生の時に今のＯ家との交流がはじまりました。そこで家や家族というものがわかり、今では当たり前ですが、朝昼晩と食事をつくってくれたり、スーパーに買い物に行ったり、楽しい時間を過ごしたのを覚えています。その後、里子としてＯ家で暮らし始めるようになりました。学校に行き始めると、初めての環境、また、名字（通称名）も変わり、困難もありましたが、家族として家から通うことに喜びを感じていました。しかし悩みもありました。友達に「あなたのお母さんって、ちょっと年が離れ過ぎだよね」とか、「本当のお母さんじゃないよね？」とか言われることもありました。また、里子も増えたため、当然「なんで？」と聞かれました。当時私には理由を言う勇気がなく、本当の自分をオープンに出せませんでした。親が違うこと、なによりみんなと違うことが私にとって恥だったからです。

小学校の思い出としてはたくさん怒られました。無視、嘘、壁に落書きをしたこともありました。また毎日のように弟である同じ里子と喧嘩をしていました。でも、そのたびにしっかり怒ってくれました。いつも正しい判断を教えてくれる両親は私にとっても弟にとっても安心できる居場所です。

そして私のターニングポイントは小学６年生の時です。父が牧師ということもあり、教会では宣教師を派遣していました。その一つにアフリカのウガンダがあります。そこに姉と宣教師家族に会いに行きました。そこで英語の必要性や自分の中で狭かった世界が広がり、今の学校へ行くきっかけにもなりました。母はいつも「とにかくやってみなさい」と言います。私は、絶対嫌だと思っていましたが、帰ってきたら考えが変わり、自分が初めて将来を考えるきっかけにもなりました。今考えると２年生から６年生の４年間に人生が大きく変化していた事に驚かされます。

中学から高校時代は本当の両親じゃない事、特に施設にいたことをコンプレックスに思っていました。なぜこんなことになったのだと考える事もありました。しかし、私はここまで生きてこられて、沢山の人に支えられて素敵な家族もできて、愛してくれる両

親や兄弟がいて、楽しいときだけではなく、辛い時こそ共にいてくれて、私を育てる事に特別な利益があるわけでもないのに本当に子供のように接してくれて愛してくれて凄く感謝しています。これこそが無条件の愛であるのだなと感じました。愛する人がいて愛してくれる人がいて、これほど嬉しいことはありません。特に体験という大きな出来事はありませんが、一つ言えることは私の両親、また、兄弟たち、みんな血は繋がっていませんが家族になれたということ、私を愛してくれていること、また私もみんなを愛していることだけは変わりません。

そして、私は現在アルバイトをして奨学金を借り、一人暮らしをしながら学校へ通っています。不安はありますが、支えてくれる家族がいたからできています。もし、信頼できる大人や近くで支えてくれる人がいなければ18歳で一人暮らしはできなかったのではないかと思います。すべて両親や家族のおかげです。１年前の自分は家から追い出される、そして不安というネガティブな思いを募らせていました。しかし一人暮らしをする上で、より沢山の人への感謝の思いや将来をより考えるようになりました。今では良かったなと思っています。だからといってみんなが18歳で一人暮らしできるわけではないと思います。特別私にはできて、ほかの人にはできないと言いたいのではなく、全ては親や信頼できる人がいざとなった時にいるかとどうかいう事だと感じました。この安心感は私にはすごく大切です。だから18歳に一人暮らしを勧めている人にお願いします。勧めている人がその子にとって本当に信頼できる人になれているのか、またなれていなくてもその子に信頼でき頼りになる人がいるかどうか確認してほしいです。

そして、最後に私を産んでくれた実の母に思いがあります。私は今まで母を赦せませんでした。なぜ、私を捨てたのか、父はどんな人なのか時々考えています。10年ぶりに去年母に会いました。母は知的障害でした。私は少しショックを受けました。これが私の正直な思いです。母は何も言わずただ泣いているだけでした。そだてられもしないのになぜ生んだのかいろんな思いが募りました。それでも母は私に手紙や毎年プレゼントを送ってくれました。もしかしたら誰よりも私の幸せを願ってくれていたから私は今幸せなのかもしれません。憎んでしまった事にとても後悔をしています。産んでくれた感謝をもって歩んでいきたいです。私には２人の母がいてとても幸せです。

また里親制度は私にとって良かったです。陰で動いてくれていた学園の先生、担当の先生、今では何が大切なのかがわかりました。血縁関係にあるないに関わらず、共に支えあって生きていく事が私たち人間にとって大切だとわかりました。これからは血が繋がっていなくても家族になれるという事を沢山の人に伝えていきたいと思います。

９　社会的養護に携わって

【里父】

我が家は平成19年の４月に養育家庭に登録をし、今、登録してから９年目ということになります。私は公務員ですけれども、典型的なサラリーマン家庭です。実子は３人おります。登録の動機は、子育てが一段落した後の社会貢献といいますか、里母の豊富な子育て経験を生かすことができるのではないかと。それまでファミリーサポートをしていましたので、その次のステップとして里親はどうかというふうに考えました。

この間、長期・短期受託あわせて今、12～13人ぐらいの子供たちとかかわってきました。今、受託しているのが５歳の男の子です。当時はまだ３歳ということになりますが、この子は10月の末から交流をしまして、２月の中旬ぐらいから長期外泊になって、４月から正式に委託を受けました。この子は、産まれてからもうずっと乳児院で育てられた子供で難しい子だと言われていましたけれども、交流している間に結構、何の遠慮もなく試し行動とか、赤ちゃん返りというのが割と露骨にあって、それが、女房との相性がいいことの裏返しであるように思いましたので、躊躇なく受託をすることにしました。

試し行動って本当に子供たちが実際にいろいろやってくれますけれども、もう５歳ですが、これくらいの年齢だとまだ対応が容易だというふうに思います。例えば暴力も振るうわけですが、最初に受託した小学校１年生ぐらいになりますと結構力も強くて、こちらがどうしてもストレスを感じてしまうのですけれども、３歳ぐらいですと多少叩かれても大したことないというか、こちらも余裕を持って対応できるということもあります。

私は、今の社会的養護全体を見渡してみましても、乳児、乳幼児、できるだけ小さいうちに里親委託をすることが何よりも重要だというふうに思っています。それは第一には、私は絶対的に守る守られるという関係が成り立つ年齢のほうが愛着関係、言いかえれば、子供の大人に対する強固な信頼関係というのがつくりやすいというふうに思いますので、基本的にはそれを理由にそう思っていますけれども、こうした試し行動に対する対応の容易さといったような実践的な理由も、できるだけ小さいうちに里親に委託するべきだということの理由に挙げられるのではないかと最近は思っています。

それで話は戻りますが、実質２月に来まして、１カ月半ほどはうちでべったりと育てまして、４月からは幼稚園の年少組にもう入れました。これは、子供がずっと女房とべったりしているのがむしろ良くないのじゃないかというふうにも考えまして、幼稚園に入れました。あの子がどうだったかということを、改めて思い出してみたところ、結構問題、課題のデパートのようでした。例えばまず乱暴者であると。女房には本当によく暴力を振るっていましたし、幼稚園でも友達を突き飛ばして、よく私や女房が呼び出されたりしていましたし、私が寝る前に読んであげた絵本、図書館から借りてきた本だったんですが、夜中に一人になったところ、びりびりに破いて破壊してしまったり、基本的にコミュニケーションが未熟なので、何か気に入らないことがあっても、それがうま

く言葉にできなくて、ずっとため込んで、どっかでそれが爆発するというパターンが多かったようにも思います。それから、自分の意思が持てていないというのもよく感じていました。これはいわゆる愛着障害がどうしてもあって、自己肯定感の低いことの裏返しではないかと思うのですが、何を食べたいとか、どこに行きたいとかというのは一切言えない子供でした。今、考えればもしかしたら何をどう言えば、私たちに受け入れてもらえるのかというのがわからないという面もあったのではないかと思いますが。

こういう話をすると、皆さん、よくそんな大変な子供を育てているなというふうに思われるかもしれませんが、こうした課題というのはいつもずっとそうってわけではないので、こうやって顕著にあらわれていないときは、単なるかわいい３歳の子供なわけです。結構楽しくやれるものではあるのですけれども、それに加えて、ここ数カ月ですかね、女房に対する暴力とか、幼稚園での乱暴狼藉の類いはもうかなりなくなってきていますし、自分の意思もしっかり表現できるようになってきましたし、実は目に見えて成長してきたような気がしています。そうした子どもたちの成長を間近に見ることは本当にうれしいし、感動します。こういうふうに、養育家庭の仕事はいろんな課題を抱えた子供たち、例えば自らの発達上の課題である場合もありますし、もといた家庭での肉体的、精神的ダメージですとか、あるいは実親との関係から生じてくるいろんな課題を抱えた子供たちに対して、大人との強固な信頼関係、愛着関係をつくって、その信頼関係をベースにして、子供が自己肯定感を十分に持てるとともに、基本的な生活習慣が身につくように助け、学校や社会で楽しく人生が送れるように育てていくということかなと思います。それに、養育家庭は社会的養護の一環ですから、もちろん養育家庭がその中心としての役割を担うことは当然だとしても、里母と里父と２人だけでやるということではなくて、児童相談所の児童福祉司や心理司の方々、それから、里子が養育家庭に来るまでに育ててくれた施設の方々、それに私たち里親の仲間がいろんな形でサポートをします。そうした社会全体で子供たちを育てていくのだという気持ちで、子供たちを受け入れていただければありがたいというふうに思います。

東京都で養育家庭の委託が進まない理由というのは、幾つもあると思います。児童相談所にも問題があると思いますし、施設のほうにも課題があると思います。でも、何よりも重要な課題というのは、東京都の中で里親登録をしてくださる家庭がまだまだ少ないということだと思います。同じ東京都の中で、実親さんが色んな理由で、色んな環境の中で、養育能力を持ち得なくて、途方に暮れている子供たちがたくさんいます。そうした子供たちを温かく受け入れてくれる家庭がまだまだ少ないということだと思います。そうした中で志を持っていただける皆さんが里親仲間に加わっていただけることを心から期待をいたしまして、私の体験発表とさせていただきます。

10　短期の委託を通して得た体験

【里母】

養育家庭に登録して4年経ちました。里親については実子を通して親しくなった方が養育家庭をしていて、その方からお話しを聞いて興味がわきました。それから10年経ち祖父母の介護も終わり、実子も大きくなった頃、テレビや新聞で子どもの虐待のニュースを聞くことが多くなり、心が痛み、自分で少しでも子ども達に関わることができればと決意し里親登録しました。今年度は一時保護委託の依頼を幾つか受けまして、一時保護委託の話を中心にしたいと思います。

今年度は、高校生の男の子、小学５年生の女の子、中学３年生の女の子３人を預かりました。期間は短い子で１週間。長くても半月ぐらいです。

一時保護委託は多くの場合児童相談所から電話が入り、夕方に子供を迎え入れることになります。そのため、寝具の用意とか、その子の荷物の置き場を準備しまして、その後に家族全員にメールを入れ、帰宅後対応できるようにしています。

一時保護委託の流れは、面会や交流期間がなく、本当にその日の昼ぐらいに電話があって、夕方に顔合わせになります。その時点から一緒に生活が始まるので、子供の状況などは最低限児童相談所の方から聞くのですが、長期間預かるわけではないので、どのくらいその子に踏み込んで聞いていいのか一番迷うところでした。

一時保護委託の場合で学校に通えない時には、自宅でずっと過ごすこともあります。なるべく生活のリズムを壊すことなく過ごさせることを心がけており、預かった子供はおおむね規則正しく生活をしてくれたので助かりました。

預かった子供の中で高校生の男の子がいました。その子は児童相談所と相談して、学校の先生にもお話しし、承諾をいただいて、私の自宅から通学していました。しかし数日後に私たちに何も言わず、その子は学校から直に自分の自宅に帰ってしまいました。その後、その子が使っていた部屋を片づけたときに、その子が私たち宛てに書いた、お世話になりましたという走り書きのメモが引き出しの奥のほうに置かれてあるのを見つけました。その子が私達に何も相談せずに実家に帰宅することを決めて、その手紙を置いて行ったことがわかりました。私はすごく悲しくなりました。帰りたい、親元に行きたい、戻りたいと言ってくれれば、児童相談所の人が、親御さんとその時点でもちゃんと話はしてくれているので、もうちょっとうまい具合にいくのにとすごく複雑な気持ちになりました。うちは女の子だけの家族だったので、その男の子にはその辺もちょっと嫌だったのかなとは思うのですが、本当は一言でも前もって言ってくれれば、もうちょっと早く対処はできたのかなと感じています。

その反面、良かったことは、担当の方を通して子供達からと親御さんからそれぞれ手紙をもらったことがありました。親御さんは感謝してくれていましたし、これは取っておこうと思い、今もファイルにちゃんと挟んで置いてあります。

預かったりするお子さんは余り感情表現が豊かではないので、なかなか表に出して笑

ったり泣いたりしないのですが、それを少しでもうちにいる間に出してくれると、やって良かったのだという気持ちになります。

今年の９月から委託されている子は中学３年の女の子Ａちゃんで、もともと一時保護委託で預かった子でした。短い間でしたが、一時一緒に生活していた事から、子どものイメージがありましたので、家族にも話しやすかったです。中３で転校することになり、受け入れてもらう学校にも配慮してもらうことが必要でしたが、実子たちが通った中学校であったことと、委託当日に児童相談所の担当の方と一緒に学校に挨拶に行くことができて、スムーズに受け入れていただくことができました。

中学生の子供といきなり一緒に生活し始めるので、基本的な生活環境がそれまでの生活で身についていなかったりと、戸惑うことがありました。最初のうちは里子と里子の家族とのやりとりがあり、現在もその関係性を大切にしつつ、調整しながら生活しています。

今、中学３年生なので、年が明けると受験があり、目下のところ受験勉強が大きな課題となっています。勉強が得意な子ではないので、児童相談所から学習ボランティアの方を週１で派遣してもらって、本人のペースで少しでも勉強してもらえればと思っています。

委託を受けているＡちゃんは、我が家に来てから御飯を本当においしそうによく食べてくれます。例えて言うなら、小学校のよく食べる成長盛りの男の子が食べるくらいの量を食べます。お肉がすごく好きで、この間もギョーザを作ったのですけれども、驚くほど食べてくれました。うちの子供もかなり食べるのですが、本当にみんなが引くくらい食べてくれます。体が資本なので食べることはいいのですけれども、余り食べ過ぎないように本人にも少しずつ言い聞かせているので、そのうちセーブしてくれるかなと思っています。

子供はいろいろな理由で保護されています。虐待を受けて保護になっている子が一番多いようですし、子供に罪はありません。一時保護委託を受けて家に来る子たちが、縁あってうちに来たのだから、うちにいる間は少しでも安心してほしいと思っていて、実子と同じように、褒めたり、叱ったり、話を聞いたりしています。

そのときに、自分の考えやアドバイスもするので、ほんの一瞬、一時でも我が家に来て良かったと思ってくれれば嬉しいです。里子が忘れてしまっても、何かが残ってくれればそれで良しと思っています。

また、私達里親が出来ることは本当に少なくてちっちゃなことだと思うのですが、何か子供一人一人に対して出来る事があれば、手を差し伸べてあげたいなと思っています。

11　我が家のたからもの

【里母】

今年の４月、１歳４カ月の女の子Ａちゃんが長期外泊で我が家で暮らし始め、そして正式委託となりました。７カ月が過ぎた現在、Ａちゃんは今、１歳11カ月になりました。とても明るくてよく笑い、手遊びとお砂場遊びと音楽が大好きな元気な女の子です。我が家は、主人と私、小学１年生の娘の３人です。そこにＡちゃんが加わって、現在、毎日どたばたと大変にぎやかな生活を送っています。

私たち夫婦が里親になろうと思ったきっかけは、３年前に長女が幼稚園に入った時で、それまで一生懸命にしてきた子育てが一区切りつき、私自身の心にぽっかりと穴があいたように感じたことでした。もともと子供と遊ぶことがとても好きだったので、できればもう一人、子育てをしてみたいという気持ちが湧いてきて、もしそうならば、長女がまだ小さい内に一緒に育てられたら毎日が楽しいのではないかという理由からでした。ネットなどで調べて、里親制度というものを知りました。そして主人に相談したところ、意外なことに特に反対することはなく、何らかの社会的意義があることだからいいのではない？という返事が返ってきたので、益々里親になりたい気持ちが強まりました。その後、児童相談所で実際の手順などを教えてもらう中で、研修や家庭訪問等もあり、すぐになれるものではないということがわかりました。特にネックになったのが認定前研修で、主人の仕事の都合で全部の研修を終えるにはかなり時間がかかりそうだったので、それまでの間、児童養護施設でのボランティアをしてみようと思い立ちました。結果的にそのボランティアでの経験が里親を決意する大きな理由となりました。私がしていたボランティアは、月に２、３度施設に赴き、幼稚園前の子供たちと遊ぶことでした。知らない子供たちをかわいいと思えるか不安もありましたが、たった１回会っただけでどの子も本当にかわいく思えました。別れた後もあの子たちは今日の午後は何をして過ごすのかなとか、この時間１人で寂しい思いをしていないかなと考えることが多くなり、やはり自分は里親になろうという決意が固まっていきました。そのボランティアは２年間続けて、その間に認定前研修を終えました。間もなく里親の認定がおり、続けて乳児研修も受けました。そして、初めてお話が来たのがＡちゃんです。当時まだ０歳。長女より年の小さい子という希望はあったものの、想像していたよりも小さくて、初めは自分にもう一度赤ちゃんのお世話ができるかなという不安がありましたが、写真を見た瞬間に私も主人もかわいいと思って、一も二もなく交流を進める方向でお返事をしました。唯一気掛りだったのは長女の気持ちでした。しかし、Ａちゃんの写真を見ると実感が湧いたのか、「お母さん、この子に家に来てほしいね。」とすぐに言ってくれました。そしてＡちゃんが10カ月の時に、交流が始まりました。ところが、これが想像以上に手ごわくて、私の顔を見るとすぐに泣き出す始末。会いに行っても大泣きしている顔か、泣きつかれて眠っている顔のどちらかしか見ることができませんでした。この頃は、週に３回会いに行って、平日は私一人で通っていました。泣かれただけで終わると、ああ、

まただめだったと落ち込むこともありましたが、きっといつかわかってくれるという信念で気持ちを持ち直していました。職員さんたちも知恵を絞ってくれて、私の絵本の読み聞かせの声をICレコーダーにとり、時々それを枕元で流してくれたり、私の写真をベッドに張って「ママだね」と声がけをしてくれたりし、少しずつ泣く頻度が減っていきました。私に対する態度に変化があったのは、交流を始めてちょうど２カ月目の大みそかの日でした。この日、初めて午前ではなく午後２時くらいに会いに行ったのですが、お昼寝をした後で機嫌がよかったからなのか、全く泣くことがなく、抱っこでずっと楽しく散歩することができました。この日以降、泣くことはなくなり、間もなく我が家への外泊許可がおりました。初めは数時間、その後１泊２日、１週間と徐々に家で過ごす時間が長くなっていきました。やはり長女の喜び方がすごかったです。

交流を始めて５カ月が過ぎた今年の４月にいよいよ長期外泊がスタートしましたが、ここで大きな壁にぶつかりました。短期外泊の時はとても機嫌がよく、家にも御近所にもすっかり慣れたと思っていたのですが、本格的に同居を始めてすぐに泣いてばかりいるようになったのです。抱っこもだめ、ミルクもだめで、一度夜に乳児院に電話をして、なぜこの子はこんなに泣くのでしょうと尋ねたほどでした。結局、１週間ほど経ってそれは突発性発疹だったということがわかったのですが、その後も不意の大泣きと、寝つきの悪さはしばらく続きました。一番手を焼いたのが私への独占欲の強さで、長女とちょっと話をしているだけで怒る、家で飼っている犬にまでやきもちを焼くので、その時は家族みんながヘトヘトになって、心身ともに疲弊していたように思います。何度ももうだめだ、長女のためにも同居を解消しようという気持ちが頭をかすめたのですが、きっとＡちゃん自身も何とかしたいと思っているのに出来ないかもしれないと考え直して、とにかく根気強く接して、気持ちを落ちつかせようと努力しました。後から振り返ると、Ａちゃんばかり構ってしまって、長女にかなり我慢をさせてしまって可哀想なことをしたと思っています。しかし、努力の甲斐あってか、気持ちも落ち着いてきて、次第に大泣きの頻度も減っていき、昼間もよく笑うようになりました。一番気がかりだった夜の寝つきの悪さも、嘘のように１人でもすっと寝つき、朝までぐっすり眠るようになりました。上の子が夏休みに入ってからは日中、２人で一緒に過ごす時間がぐっと増えて、益々仲よくなっていきました。主人にもよくなついていて、高い高いや両腕を持って空中でぐるぐる回ったりという体を使った遊びを、よく要求しています。児童館通いや習い事も始め、今ではかなり社交的にもなりました。

里親になって無我夢中で駆け抜けてきたこの１年余り、受け入れ直後は大変なことも続きましたが、とにかく今は家族全員の仲がとてもよくて、我が家になくてはならない存在になっています。

12　たくさんの出会いに感謝

【里母】

ただいま紹介にあずかりました養育家庭のSと申します。登録６年目になります。現在、私は、８歳の男の子Mと５歳の女の子Ａの２人の里子、それに３歳になる実子とでにぎやかに毎日を過ごしてます。夫婦２人と夫の母で６人で生活をしてますが、私たちには成人した娘と息子もおり、近くに住んでいます。上の娘に子供が２人おり、時々一緒に過ごしては、にぎやかというよりは騒々しく、でも楽しい日々を過ごしています。

私が養育家庭をやりたいと思ったのは、短大卒業後から児童養護施設で働いていたことがきっかけでした。二十歳そこそこで子供たちを育てることに必死になる中で、施設でも家庭的な養育を目指してはいましたが、施設の限界を感じ、やはり養育家庭がいいなと思っていました。その後、結婚し、当初から私が養育家庭をしたいという思いを夫もわかってくれていましたし、いつかはと思っていました。しかし上の２人の子供が夫の連れ子なので、思春期に差しかかる中でいろいろな子育ての壁にもぶつかりました。その中で、やはり２人の子育てが落ちついてからという話をしておりました。

そんな中、上の息子は知的障害を持っていることもあって、夫と２人で障害者のグループホームを始めることになりました。自分自身で出産をして子供を育てたいという願いも持ってましたが、なかなか子供には恵まれず、グループホームの運営が落ちついた頃、結婚７年目にして養育家庭の登録をすることになりました。

登録とほぼ同時に、乳児院にいる３歳半の男の子を紹介していただきました。ダウン症があるとのことでしたが、自分たちの障害を持った子供の子育ての経験やまた仕事の経験が生かされるのであれば、障害を持っていようと、出会いは大切にしたいと思い、喜んで面会に出かけて行きました。３歳にしては、まだ体も小さくて、成長もゆっくりなことがわかりましたが、何よりとても人懐っこくて、かわいい笑顔に２人とも魅了され、この子をうちに受け入れたいという気持ちが固まりました。周りからは、わざわざ障害のある子を受けなくてもと言われたこともありましたが、私たちはどんな子でも受け入れたいという気持ちは変わりませんでした。一緒に生活を始めて５年になります。もちろん子育ての悩みは尽きません。でも、それらはどんな子を育てるときにも同じなのかなと思っています。最近は大分憎たらしいことも言うようになってきましたが、言葉が大分ふえたことを喜びつつ、何より３年生になっても素直に「ママ大好き」と言って飛びついてくれる愛情表現をしてくれる姿が私たちにとっては喜びです。

Mと一緒に生活を始めて１年ほどたったころ、今度は１歳を過ぎた女の子を紹介していただきました。小さい子をと望んでいた私たちは大喜びでした。ただ、家庭の事情で数年後には家庭への引き取りがあるかもしれないということ。一番かわいい時期に、また本人にとってはよく理解できないだろうという時に家庭へお返しするかもしれないというお話には多少の不安もありましたが、それでも今、家庭を必要としている子がいるのならと、交流を始め、１歳５カ月のときに我が家に来ました。最初はなかなか笑った

りも怒ったりもせず、感情表現が少なく、いろいろ心配したこともありましたが、今ではすっかり感情表現が豊かな子に育ってきています。実はＡと一緒に生活を始めて１カ月ぐらいたったころに私の妊娠がわかりました。一番甘えさせてあげたい時期と重なってしまったので、かわいそうだったという思いもあります。でも、最初はパパっ子だったＡも、下の子を出産と同時に赤ちゃん返りをして、私にもべたべた甘えるようになって、そのころから感情表現が豊かになりました。私たちが待ち望んで生まれてくる命を間近に見ること。また、たくさんの人が喜んで祝福してくれる姿を近くで見る体験は、自分が生まれた時はどうだったのだろう。どんな様子だったのだろうと、小さいながらも素朴な疑問として残ったようです。生まれた時の話をしてあげられないことはつらいのですけれども、生まれてくる命はみんな愛されるために生まれてくるんだということを感じる経験につながったのではないかなと思っています。私たちにとってはＡが私たちが望んでいた赤ちゃんを連れてきてくれたのかなと感謝しています。Ａと暮らし始めて約４年です。もう少し長く、我が家で過ごせることになりそうです。実親さんとの関係は悩むところも多いですが、すっかり家の子として兄弟同士も仲よく過ごしています。

私たちは夫婦２人で仕事も続けながら子育てをしているので、時間的なことも含め、両立の悩みがあります。またどんな子育てにもきっと悩むことがない子育てなんてないのだろうと思うので同じかなとは思いますが、日々、この関わり方でよいのだろうかとか、この子にとって何が必要なのだろうということは毎日のように格闘しています。

また里子だからこその壁もあります。Ａには４歳のときから実のお母さんのことを話し始めました。少し不安定になった時期もありました。もちろん大きくなっていく中では、里子としても、また実子としてもそれぞれのいろいろな思いを抱えていくのだとは思います。小さいうちから話して聞かせ、いろいろな思いを乗り越えていかなければいけないことは、それは大変なことだとか、つらいことなのかなということも思います。でも、捉え方によっては、そういう体験が世の中いろいろな人がいて成り立っていることへの理解に、またいろいろな人の気持ちを考えてあげられる人への成長につながるのかなとも思います。私自身、何もない子育てなんてない。壁にぶつかるからこそ子育ての喜びや楽しさもより深く感じられるのかなと思っているので、毎日の悩みよりも、この子たちとともに過ごせる喜びのほうが大きいと感じています。私たち夫婦がこの２人に出会えたことも、兄弟同士が出会えたことも、本当に感謝です。私たちは周りにも里子であることを話しています。この先必要があるときに寄り添ってもらえる人が増える可能性が増すと思うからです。２人が我が家に来てくれたことで出会えた出会いもたくさんあります。たくさんの出会いにありがとうの気持ちでいっぱいです。私たちが子供達にしてあげられることには限りがあります。私たちは全然完璧な親にはなれないし、これからも足りないことはたくさんあるのかもしれません。でも、この子たちが生まれてきてよかった。自分は愛されるために生まれてきたんだなと感じられるように、これからも寄り添い続けていけたらなと思っています。ありがとうございました。

13　子どもからの手紙
～子どもに寄り添い、共に乗り越える決意～

【里母】

現在、高校2年生の女の子を6歳のときから養育中です。また、フレンドホームとして小学校4年生の男の子と4年前から交流をしております。私の家族は夫と私、31歳の長男、28歳の次男、24歳の三男と21歳の長女、18歳の四男と16歳の高校２年生の里子の6人の子どもです。長男と次男は自立し、大学生の四男も一人暮らしをしているので、今は三男、長女、里子、私たち夫婦の5人で暮らしております。

私が始めに養育家庭に興味を持ったきっかけは、小学校2年生まで通っていた学校に児童養護施設の子ども達が通っていたことです。帰り道はいつも一緒で、その子たちと話していて、施設での生活と私の家での生活の違いを知りました。また、教員だった父の経験の影響もあり、私は将来子どもを守る大人になりたいと思ったのがきっかけです。大人になってからも、その思いはずっと残っていましたが、次々と５人の子どもが与えられ、もう24時間体制の子育ては十分だと感じていました。それでも何かできないかと思い、ショートスティなどの協力家庭に登録しました。その時に、実際の里親さんがモデルになったドラマを見て、養育家庭が本当に大変なことが分かったと同時に、どうしても必要な働きであることも分かりました。そして、当時実子の娘がまだ小学校４年生でしたけれども、きょうだいが全部男の子ですので、私も妹が欲しいなと言ったのが後押しとなって、まずは養育家庭の体験発表に行ってみようとなり、その後養育家庭登録をしました。

半年ぐらいたったころに、当時５歳の女の子が紹介されました。ちょうど名前の一番下の文字が実子の娘と同じだったこともあって、きっとうちの子になると確信して夫と２人で児童養護施設に会いに行きました。その日はほとんど話さずに帰ってきました。その後も月２回のペースで児童養護施設に会いに行きました。施設に帰ると「超楽しかった」と言ってくれるそうですけれども、私たちと過ごしている間はこちらの問いかけに一言二言返ってくる程度の会話しか成り立ちませんでした。我が家に外泊する段階になると、だんだん行き渋りが激しくなってきました。迎えに行っても、１時間以上施設の玄関で待たされたり、今日は嫌だと言われて、次の日に出直したりということが続きました。そんなに嫌なのに、無理に私たちの家に連れてきてよいものかと夫と何度も話し合い迷いましたが、ここで断ったとして、この子が家庭に行く機会は二度となくなってしまうかもしれないと考えたとき、私たちのほうが待つべきだという結論に達しました。そして、小学校入学を目標に交流を進めていき、彼女は私たち家族の一員となりました。交流中もほとんど自分から話すこともない子でしたが、来てみると意外とひょうきんで活発な子であることが分かりました。

赤ちゃんのころから施設の中で過ごしてきた彼女には知らないことが多過ぎて、初めてのことには極度の不安を示しました。小学校に入学しても、一つ一つの言葉がわからないので、家族総ぐるみで寸劇をして説明したり、夫と私で毎日２時間ぐらいお勉強を

見る日が２年ほど続きました。

曜日や時間の感覚も余りなく、昨日・今日・明日というときの繋がりがなくて、『今』という瞬間を生きているような感じがしました。彼女にとってたった１人で全く想像のつかない環境の中に飛び込むことは、どんなに不安なことだったのか、交流中の行き渋りも今では理解することができます。そして、だんだん私たちの家庭での生活にもなれて、学校でも地域でも自信を持って行動できるようになってきました。

やがて、5年生になったころ、私たち親子にとって最もつらい時期がやってきました。思春期を迎えつつあったこと、クラス自体も落ち着きがなく、友人関係の変化からか、１カ月のお小遣いでは到底足りなくて、家のお金を持ち出したり、約束の時間に帰ってこなかったり、遠くの学区外のお店まで出かけていったり、習い事をサボったりという行動が目立つようになっていきました。大人たちが叱っても彼女たちの行動が目に見えてよくなるということはありませんでした。もう私たちには無理かもしれないと何度も思い、夫とも毎晩のように話し合いをしました。そんな時に、ふと私の心に彼女は今までどれだけ裏切られてきたのだろう、悲しみはどれほどだったのだろう。彼女が裏切られた分だけ私が裏切られたら、何かが変わるかもしれない。だったら、いくらでも裏切られてみようという思いが湧いてきました。その日から彼女の行動が少しずつ受け入れられるようになってきたのを覚えています。もちろんよくない行動を放っておいてはいけないので、ぶつかり合うことは続きましたけれども、中学2年生になったころから友人関係の変化もあり、私たちの家に来たころ、鉄のようにかたいと感じた彼女の心が目に見えて柔らかくなっていくのを実感しました。中学校の卒業式の少し前に「学校で強制的に書かされたんだよ」といって、卒業式の日に私たちへ手紙を渡してくれました。

『これまで９年間育ててくれて、ありがとう。ここまでたくさん迷惑をかけてごめんなさい。私が小学校で失敗しても、中学校で失敗しても、家から出て違うところに行くといっても、離さないでいてくれてありがとう。お父さんとお母さんには感謝してもし切れないくらい感謝しています。これからは高校生となり、義務教育も終わって自分で決めなければならないことがたくさんあります。不安で怖いけれど、私にはたくさんの味方がいるので頑張ります。いろいろなことにチャレンジして、立派な大人になりたいです。私もいつかお父さんとお母さんのような家庭をつくりたいです。』

これからも社会との橋渡しをして、安心して自分の道を歩いていってよいのだと背中を押してあげるのが里親の役割なのかと思っています。そして、私たちの家庭から巣立ってからもふらっと帰ってきて、心を癒やしていける場所であってほしいと願っています。

14　我が家の６人の息子たち

【里父】

私が妻と結婚した時期は、虐待やいじめが連日報道され始めた時代と記憶しています。そのため、定年退職後虐待されている子や命を落とす子を１人でも多く救いたいと妻と話していました。その後、平成２３年に養育家庭に認定登録されました。それ以前は単身赴任や出張で多忙でした。実子２人に恵まれ、赴任も終わり、児童相談所が近所だと知り、里親制度について聞きに行きました。里親になることは、簡単でない事は分かりましたが、妻と研修に参加し、児童養護施設のボランティア経験もしました。

認定登録４か月後、小学校５年生の男児が１か月間我が家に来ました。私は非常に気負って、一所懸命関わりました。実家に帰る４日ぐらい前に「父ちゃん」と呼ばれ、非常に嬉しくて道端で抱きしめてしまいました。

１人目が帰宅する数日前、虐待で緊急一時保護された小学校４年生の男児が我が家に来ました。彼の体には痣がありました。玄関に入った途端、彼は安心したと泣き出しました。「児童虐待」の知識はありましたが、実感はありませんでした。彼に会って、その痣を見て、初めて児童虐待が存在していることを理解しました。

登録１年後に、中学校１年生男子が我が家に来ました。彼の母親は不治の病で受託後１か月もしないうちに亡くなりました。彼は、児童養護施設ではなく里子として生活すると決意し、今に至っています。彼は、母親が亡くなった時から、涙を１回も見せず、悲しい顔もしませんでした。どう接して良いのか戸惑い、気を遣ったのを覚えています。今彼は高校２年生です。数か月前、彼の寝室からうめき声が聞こえました。彼は部屋のベッドの中で顔から毛布をかぶって震えていました。どうした、と言って毛布を剥がしたら、泣くのを必死に我慢していました。初めて、「悲しい、辛い、お母さんのことを思い出していた」と話してくれました。彼が我が家に来て３年程になりますが、大人を信じ切れていないのかもしれません。もちろん、私たちが里親として十分に対応出来ているとは言えません。でも、里親が本気で関わってこそ初めて里子も心を開いてくれます。今は心を繋げようとしている最中です。少しずつですが、日々心が近づいてきていると実感しています。

彼が我が家に来たとき、私と妻よりも背が低かったのですが、今は180㎝を超えました。家族の中で一番身長が高く、私も見上げるほどです。でも、褒める時頭を撫でると非常に喜びます。嬉しいとは言いませんが、口角が上がるから分かります。そういう顔を見ると、愛情を求めているのだろうな、我々も出来る事を精一杯やろう、と勇気をもらえます。

４番目の里子は、生後５日で乳児院に預けられ７か月で初めて対面しました。今３歳半です。恥ずかしながら、実子の２人のおむつを替えた事が一度もありません。実子が彼の年齢の頃は、私自身仕事が最も忙しい時でした。ですので、おむつを替える

経験は彼が初めてでした。家族に対して、自分がいかに何もしていなかったか、貴重な時間を一緒に過ごせなかったかをまざまざと実感しました。私は、里子との関わりを経て今、子育ての喜びや苦労をひしひしと感じているところです。彼が１歳頃、入院をしました。幸い実子は健康で入院をしたことがなかったので、子どもが入院するということが初めての経験でした。遠方に出張中だったので、妻から連絡が来た時心臓がはち切れそうなぐらい心配でした。やっと病院に行ったら、小さいので、点滴を外さないよう動けないようになっていました。その様子は切なくて切なくて。同時に、実子が健康に育ったことへ深い感謝が湧きあがりました。１週間程の入院でしたが、里親として愛情を強く実感し、絶対にこの子を守ろうと決意を新たにしました。

彼に関しては、今後これまでの子育てでは経験したことのない体験をしなければいけません。例えば、真実告知。私達の実子ではないと告知します。物心がしっかりつく前には始めなければいけないそうです。その際、必ず実子の２人、高校生の里子、周りの人々が愛情を持って接し、協力や援助をしてくれると確信をしていますし、これまで以上に愛情を持って接していこうと考えています。また、18歳以降は自分自身の人生を歩みますが、産みの親に産んでくれたこと、周囲の人々に「ありがとう」と自然に言えるような育て方をしたいと思っています。

養育家庭の登録は、私と妻だけで出来ません。２人の実子と何度も話し合いました。長男は、比較的スムーズに理解してくれました。次男は、理解はしてくれましたがあまり納得いかない様子でした。私は、次男が小学生の間大阪に単身赴任していました。久しぶりに家族が揃ったのだからもっと自分に愛情を注いでくれれば良いのにと感じていたのだと思います。もちろん里子が来てからは２人とも非常に協力的で。積極的に関わってくれています。私の両親には、登録を反対されました。実子２人の養育や私の仕事が忙しい中、妻に更に大変で苦しい思いをさせる、と言われ、信じてほしいと半ば反対を押し切って里親登録をしました。しかし、今里子との時間を一番に楽しみにしているのはその両親です。

一度限りの人生の中で里子を迎えたことは、私に実子のオムツを替えたことがないことを振り返らせ、その大切さを知らしめてくれました。実子には出来なかったこと、かけてあげられなかった言葉を掛けることが出来ます。この経験は、実子の時もこうだったのだな、という思い、それに対してのおわびや、お礼も出来ます。

当たり前のように息子４人と夫婦、６人で暮らしていますが、実子と話し合い、理解を得、賛成も反対もあり、今日に至っています。里子との時間は、大変な事や苦しみもあります。しかし、体験しなければ分からない喜びや嬉しさが勝ります。

未だ数多くの子供が乳児院や養護施設で生活しています。人生を歩む上で、愛情は欠かせないと思います。数多くの方に養育家庭里親制度を知ってもらい、養育家庭里親家庭で子供が育つ機会が増えて欲しいと強く感じています。これから多くの方が養育家庭制度に興味や関心を持ち、取り組んでくださることを願っています。

15　４歳の僕と今の僕

【元里子】

よろしくお願いします。今、大学の２年生で、地域福祉を学んでいます。

まず、僕が里子になった経緯から話させていただきたいと思います。

母子家庭でした。実母によるネグレクトが原因で４歳のころに里親のところに行きました。里親宅に来たのは、誕生日の８月24日に近い、夏のすごく暑い日で、汗をたらしてやってきたという情景は今でもすごく記憶に残っています。

４歳で里親宅に来た時の僕はいわば問題児だったと聞いています。ネグレクトで親に見放されて愛情をもらえなかったせいか、里母に暴力を振るっていました。里母にかみついて、物を投げて。言葉もそれほどしゃべれなかった。４歳のときに知能テストを受けたんですけど、知的障害があるんじゃないかと言われたほどでした。里父母は、僕が荒れた状況なので、この子は途中で育てられなくなるんじゃないかと思ったそうです。

そんな僕でしたが、里父母は僕を真正面から受けとめてくれました。里父は電車オタクで電車が好きだった僕を、いろんなところに連れていってくれました。里母は、僕の気持ちとか、したいこと、やりたいことを、わがままであってもすごく受け入れてくれました。ただわがままを受け入れるだけでなく、厳しいことも言われました。僕は昔からやんちゃで、物心がついたときから骨折もしましたし、交通事故にも遭っています。そういう子供でしたので、だめなことはだめだし、やらなきゃいけないことはやらなきゃいけないと言われてきました。

また、里母はいろいろな経験の中で、この子は子供の段階でできるだけ能力を伸ばしてあげないと、将来伸びる幅というのは狭くなってしまう。個別指導とかそういう支援、援助をさっさと受けさせたほうがいいと判断しました。それで個別指導を５歳のときから小学校の４年まで受けました。発達障害があるとお医者さんから診断を受けたときも、いろんな治療をしてもらって今に至っていて、そのお医者さんからも、僕にとってプラスになるような説明をしてもらったり、支援をしてもらったりしました。

それでも、僕は里子であって実は親とは血がつながっていないということを、自分から人前で言うことはありませんでした。小学生のころに上の学年の人に体が小さくてからかわれたりしたので、中学生のころまではずっとそういう生い立ちを隠して生きてきました。高校２年生のときに、初めて部活の仲間に言いました。そのときには、「ああ、そうなんだ。」「いろいろ大変だったね。」と言われたのは、今でも記憶に残っています。それでも、何で僕は里子として生きなきゃいけなかったんだろうという憤りが消えることはありませんでした。

高校３年生のときに奨学金の申請で自分をもう一度、考え直す機会がありました。体が細いだとか、おっちょこちょいで、心が弱いとか、そういうのは、幼いころ受けていた虐待が影響しているんだなと気づきました。それをマイナスではなくて、僕にはもっといいところが沢山あると思えるようになりました。

大学生になって、里子であることをカミングアウトしてからは、いろんな当事者活動をしています。児童養護施設や里親さんのところを巣立った同期の友達がいます。彼らはひとり暮らしをして、奨学金を借りて大学に行って、一生懸命生きているというのが現状です。奨学金はもらえるものは少なく、将来はやりくりしながら、返していかなきゃならないのです。学費はもちろん、自分で生活するということは、能力や、時間が必要です。親がいる子供と親がいない子供の格差というのはそこではっきりしてしまう。本当に頼れる場所がないし、お金がないし、保証人がいないし、そういう問題がたくさんあることを伝えていきたいと思っています。

僕は措置解除後も里親さんのところで生活をさせてもらっています。家に帰って「ただいま」と言えば「おかえり」と言ってくれるし、御飯をつくってくれていて普通に食べられるし、風呂は沸いていてすぐ入れる。僕は里親さんのことを普通に「母さん」「父さん」と呼んでいます。家族として、あるいはきょうだいとも普通に話ができる、相談事もお互いに助け合うこともできる。そういう「普通の事」が本当に僕の中では大事で、大切で、どれだけ安心して暮らせるかというのを実感して、感謝しています。僕は親に反発したこともすごくあるのですが、本気で褒めて本気で叱ってくれる人というのはこの世の中でこの親以外にはないと今は思っています。

そして今度は僕が人を支える番になっています。僕には里子のきょうだいが居ます。僕の１歳上の兄貴も大学へ行っています。下に５人いるんですけれども、５人のうちの４人がハンディを持っている子供たちで、今まで上のお兄さんやお姉さんがしてくれたことを、今度は僕がしています。きょうだいが映画へ行きたいと言ったら、一緒に行くし、ハンディのある弟を風呂に入れることもあります。

僕は将来、海外で地域づくりや農村開発をしたいなと考えています。それを考えるきっかけをつくってくれたのも父母です。母は「血縁関係がないことをプラスにとらえたらいい。親戚とか親族とかそういったことを考えなくていいということは、何かに縛られる必要がないと言うことだ。だから、あなたは世界中どこに行っても良くて、そこで自由に生きるという選択肢があるんだよ。」と言ってくれました。里子として人と違うとばかり感じてきた僕は、「人はみんな違う」ということを体験したほうが良いと、海外に行かせてくれました。ネパールやフィリピン、オーストラリアなどに行きました。そういう中で、「人と違うということが決して悪いことではない」ということを考えるきっかけをつくってくれました。

最後に、これから里親さんになろうとしている人、里親さんにはなれないけれども子供たちとかかわりたいなと思っている人、いろんな人に里親制度を理解し、そこで育った子供たちが幸せであることを知ってほしいなと思います。

16　H君が来て、わが家は変わった

【里母】

我が家は、主人と小４、中１の実子、主人の母親、里子のH君と私の６人の大家族で暮らしております。私は、結婚して13年間子供を授からなくて、その間に里親になることを考えた時期がございました。長男を13年目に授かり、育児に追われ、里親になることなど忘れかけておりましたが、子育ても少し落ちついたころ、同世代の友人が里親をしており、里親を勧められた内容というのは、施設で過ごしている子供たちは家庭の味を知らずに育つ。その子供たちが結婚すると家庭の生活がうまくいかず、難しくなるケースが多いので、家庭という家族で生活をともにする経験をさせることがとても大切であるということを聞き、お手伝いができたらと思いまして、里親登録に踏み切りました。我が家に昨年の８月に正式に里子として３歳の男の子のH君をお預かりすることになり１年３カ月たちました。H君との交流期間中は、H君と会うたびにH君の笑顔がふえていき、私もH君と会える日はとてもうれしく、少しずつ愛情も深まってまいりました。

我が家での生活が始まり、最初はなれ親しんだ乳児院との生活環境の違いにH君は戸惑いを隠せなかったようです。彼は成長がとても緩やかで、発達面でも特性があり、そのせいで音や光もの、いろいろなことにとても敏感で、乳児院では危険なものは彼の手の届かないところにありましたので、我が家では彼にとっては珍しいものばかりで、いろいろなものを触り、口に入れ、これなあに？　何の音？　なぜこうなの？　どうして？と当初、一日中質問して、興味関心を持ち、そのたびに私はゆっくりと説明しましたが、彼の理解を得ることは大変難しいようでした。

初めてスーパーにつれて行きましたときに、実子たちは小さいころから行っていますので、珍しくもないのですけれども、彼には多分初めての世界で、お菓子や野菜をつまみ食いしました。ブドウもとりました。わざと隠れて迷子になったりと、驚きと好奇心と興味深々で、お試し行動も伴い、一から何事も教えなくてはならないので、まるで宇宙人の子供をお預かりしているような気持ちでした。乳児院のスタッフの方から、H君には全てが初めての経験なので、なれるまでは大変だと思いますよと言われたことの意味がよくわかりました。私の実子たちの幼いころとは全く違うんだと。でも、いつか必ずわかってくれると信じ、ゆっくりと促していこう、そうだ、楽しんでいこうと私の心を切りかえました。

あと、H君は多動な面があり、頭のスイッチが入ると走り回ってしまって、とまらなくなってしまいます。そして疲れ切ってぱたんと寝てしまう。実子たちは驚き、不思議で、まるでお猿さんかビデオの早送りを見ているようだと不思議がったり、おもしろがったりしていました。子供は正直ですので、見たこと、感じたことを正直に話すものです。このようなことは、ある意味この子たちのチャンスと思いまして、H君のように、どうしても家庭の事情で、自分の家で家族と暮らせない子供が全国にはたくさんいて、H君は生まれてすぐに乳児院に預けられ、保育士の方たちに育ててもらったのよ。特に

見てのとおり、発達に問題があるし、体はとても弱く、いろいろな人の手を借り、多くの困難を乗り越えてきょうのH君があり、私たちは少しでも家庭という世界を味わってもらいたくて、一生懸命H君と一緒に過ごしているのよと伝えました。実子たちは、僕たちは自分の家でパパやママと暮らせてよかった。家の事情で乳児院に預けられるなんてかわいそうだねと言ってくれました。子供たちにとっても未知のことで、ショックを受けたり、そうだ、H君をこれから守ろうと言ってくれたり、子供なりに、想像できない当たり前でない自分たちの恵まれた環境をありがたく思っていたようです。今はまだ子供たちはそれぐらいしか理解できないと思いますが、貴重な得がたい経験であると私は信じております。

また、H君は発達に特性がある子供ならではのすばらしさも持ち合わせています。とても純粋で、お散歩が大好きなので、私と手をつないで歩いていると、小さくて小さくて本当に小さい一生懸命咲いているお花や虫に目がとまり、じっとしばらく見詰めます。お散歩している犬や猫、ハトにも目がとまります。空を見上げて飛行機雲を見詰め、雲が消えるまでずっと見ています。お月様も大好きです。ママ、いつもお月様ついてくるよと、そんなゆったりする時間は私には今までありませんでした。H君がそんな大切な貴重な時間をくれたのです。花を見ても、虫を見ても、空を見ても、ママ、きれいだね。そんな時間ももらいました。

ご近所の方にも、里子ですよとお伝えしてから、皆様がとても我が家の家族を褒めてくださったり、さまざまなお菓子、お洋服、靴までくださったり、驚くことばかりです。H君は人懐っこい性格なので、なじみやすく、H君を通じて近所の方々ともつながりがまた一段と深まりました。

まだまだこれからもいろいろと山あり谷ありで課題もたくさんございます。この１年３カ月、たくさん経験させていただき、里親にならなかったら、H君の成長が緩やかでなかったら、きっと会うこともなかった、会えなかったのではないかと思う方々にたくさんお会いすることができました。H君にかかわればかかわるほど、私自身が成長させていただき、世界観、価値観までも変わりました。こんなに変化した年はなかったかもしれません。

まだ４歳。これからもいろいろと成長していくことがとても楽しみです。心配してもきりがありませんし、先のことを深く考えても仕方がないです。それよりも、これまで大きな病気もせず、本当に元気に育ってくれたこと、きょうのこの姿、今、元気で活発で、緩やかであるけれども、一生懸命育っているH君を応援している自分がいて、本当に里親になってよかったなと思っております。神様からのギフトじゃないかとも思っております。主人の母は82歳の高齢なんですが、H君が来てからどんどん若返えり、最初はよくわからない子が何でうちに来るのなんておっしゃっていたんですけれども、今では２人で本当に楽しく遊んでいる様子が見えたり、母が我が家の洗濯物を一気に引き受けてくださったり、家族が非常に協力的になったような感じがいたします。

17　里親と出会えて…

【元里子】

本日は、短い時間ですが、私の経験をお話しさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず初めに、私が児童相談所にかかわることになった経緯とその後についてお話をいたします。

私は出生後から新生児集中治療室に入院していました。入院当初、実母は私を見舞いに来ていましたが、生後１ヶ月経った頃病院に来なくなりました。実母により育児放棄された私は、入院先の病院を退院後、都立の保健院に入所しました。そこは医療設備が整っており、さまざまな病気や事情を持つ子供たちが生活していました。院長先生は医師で、職員さんは看護師の資格を持った人たちでした。小学校に入る前、３月から児童養護施設に移動しました。その後、小学校４年生の３月から里親の家で暮らすことになりました。

里親さんと児童養護施設の違いは、施設は一つ屋根の下でたくさんの子供たちが生活することは、時にはけんかすることもありますが、笑い合える日々を過ごしていました。楽しいことはみんなで共有しましたが、インフルエンザ等の病気も１人が病気になると瞬く間に感染が拡大し、集団生活は大変だなと感じました。また、職員さんは１年間を通じて入れかわりが激しく、職員さん１人につき面倒を見ている子供たちの人数が多いので、児童一人一人に対しての細かいサポートができないことが多くて、不安や心配になり、自分の置かれている状況がわからず、児童養護施設に会いに来ない両親を恨んだ時期がありました。里親の家では、子供の入れかわりが激しいですが、里親さんはいつまでも里子と一緒にいるので、安心感が得られました。今では実母の命がけの出産に対して感謝の気持ちでいっぱいです。

里親さんの家で里父に初めて会ったとき、話をしているときに、いつも顔が赤くなるので、お酒を飲んでいるのかなと思いましたが、実際はお酒を一滴も飲まない人でした。里母に初めて会ったときは、顔がきれいで美人だなと感じたのを覚えています。里父は挨拶に厳しい人で、どんな状況であっても、私が挨拶をきちんとできていないと、挨拶は人間の基本だと言い、よく注意を受けていました。里母は料理がうまい人で、子供たちの健康面や栄養面のことを考えながら、毎日温かい御飯をつくってくれました。里親さんの家で私以外にも数人の里子がいて、一緒に生活をしていました。子供の人数が多ければ多いほど、テレビ鑑賞や食事等のさまざまな場面においてにぎやかで、和気あいあいとしていました。毎日がとても楽しくて、充実した時間を過ごしていましたが、里親の親戚が集まったときには、顔も知らない両親のことを考え、何度も寂しい気持ちになり、自分の部屋で号泣したこともあります。

里親の家で過ごした８年間は、里父や里母の言う言葉に耳を傾けず、自分の要望や願望ばかり伝えるわがままなところや、自分の言いたくないことは言わず、１人で抱え込

み、胸の内に隠すような性格でした。そんな私に対して里父や里母は、私のことをもっと知りたい、理解したいという親心から、何度も３人で話し合う機会を設けてくれました。今思えば、こんなにわがままで反発ばかりしてきた私を見捨てることなく育ててくれた里父や里母に感謝しています。これからは、私が里父や里母にお世話になった恩返しをしなければならないと思っています。

現在は、今年の３月で里親宅を卒業し、会社員となり、会社の寮で生活をしています。空港で飛行機と人命の安全を守る仕事をしています。仕事をする上で飛行機と人命に危険が及んだら大変なので、毎日とても緊迫した中で仕事をしています。仕事中は先輩に教わったことをメモして、少しずつ覚えながら、自分のものにしていく気持ちで頑張っています。

仕事が休みの時は、寮にある自分の部屋で炊事や洗濯、掃除等の身の回りのことをやっています。その中で一番困っているのは料理です。なぜかというと、自分自身で栄養面や健康面を考えながら献立を決め、食材の買い出しから、食器や調理器具等の片づけまで、全部１人で行わなければならないからです。１人で料理をしていると寂しい気持ちになります。最近になって楽しさもわかってきました。

寮で身の回りのことが終わったら里親宅に行って、里父や里母の手伝い、里親宅で生活している子供たちのお世話等をしています。一段落すると食事等の時間になりますが、食事中にふと考えることがあります。里子だったときは、里親宅に帰ると誰かがいて、おかえり、ただいまと声をかけ合う生活がありました。食事の献立をつくる苦労も知らず、温かい御飯をつくってもらい、料理に合わせた温度で御飯が食べられることも、全てが当たり前だと思っていました。感謝の言葉や気持ちは心の中で感じていましたが、このことを口に出して相手に伝えることはほとんどありませんでした。今では里父や里母に素直な気持ちを伝えられなかったことを後悔しています。またそのときは感じていなかった温かい御飯を食べさせてもらったことに感謝しています。そして、里父と里母にすごく言われ続けた挨拶と返事は、人間の基本ということを社会人になってから改めて認識しました。

私には実現したい夢があります。それは医師になることです。私の生まれた病院で医師として働くことが目標なので、夢や目標を実現するためにあらゆる手段を尽くして頑張ります。

最後になりましたが、里父と里母に言いたいことがあります。８年間私のことを育ててくれてありがとうございました。私は、里父と里母にたくさんの心配や迷惑をかけたと思います。申し訳ございませんでした。私にとっては８年間という年月の中で色々なことがありましたが、今思えば、とても充実していて、楽しい日々でした。私は、里父母の家を実家だと思い帰っています。帰る家ができて、いつでも温かく迎えてくれる家族ができたことに幸せをかみしめています。こんな私ですが、これからもよろしくお願いいたします。

18　２人の里子と出会いが与えてくれたもの

【里母】

我が家には、現在２人の里子が暮らしています。１人はもうすぐ11歳になるA君で、１歳半のころから10年間育てています。もう一人は５歳のB君で、同じく１歳のころから約４年間育てています。

私は、結婚して２年目、そろそろ子供が欲しいと思っていたころに病を患ってしまい、残念なことに子供が産めない体となってしまいました。病気が回復した当初は、これからは主人と２人の人生を歩んでいこうと思っていたのですが、両親と子供がそろった家庭をつくりたいという子供のころからの夢をなかなか諦めることができませんでした。

養子に関する情報を集めていたところ、東京都の養育家庭制度を知りました。それまでは子供を引き取るイコール養子縁組をするとばかり思い込んでいたのですが、家庭の事情でどうしても育てられない子供を養子ではなく、里子として養育する形もあることを初めて知りました。そこで、当時まだためらっていた主人を話を聞いてくるだけだからと半ば強引に説得して、１人で児童相談所を訪れ、担当の方から養育家庭制度について詳しいお話を伺いました。

私たちが一番悩んだのは、養子を目的とする里親か目的としない養育家庭か、どちらに登録するかという点でした。しかし自分は一日でも早く子育てをしたいのだという気持ちに気づき、それならば必ずしも養子縁組という形にとらわれる必要はないのではないかと考えが変わってきました。

平成17年11月に養育家庭登録の認定を受け、登録を済ませると、いつ里子の紹介が来るのだろうかと、毎日のように楽しみで仕方がありませんでした。

その５か月後に児童相談所から１歳半になるA君という養育家庭候補の子供がいるとの連絡がきました。私たち夫婦はA君をぜひ育てたいと希望して、その後、４か月にわたる交流を始めました。

交流を始めた当初のA君は、おとなしく私たちになじんでくれているように思われたのですが、そのうち、会う回数を重ねるごとに私たちを嫌がるようになってしまいました。私たち夫婦が一体何者なのか。これからどうなってしまうのか。不安でたまらなかったのだと思います。しかし、そのうち一緒に散歩などに出かけるうちに、次第になれてきてくれ、これまでは乳児院の先生しか見せなかった満面の笑みを私たちにもしてくれるようになって、とてもうれしかった覚えがあります。

とはいえ、私のほうも初めての子育てで、当然のことながら何をどうしていいのかわかりませんでした。近くに住んでいる親もいないため、誰にも代わってもらうわけにはいきません。日中は子供と１対１で煮詰まってしまうという状況の中、次第に疲れとストレスがたまってきました。このままではまずいと思い、気分転換を求めてできるだけ外に目を向けるようにしました。そして、何よりも心の支えになったのは、月に一度、児童相談所に里親が集まる里親サロンに参加することでした。里親サロンでは里親特有

の問題で同じ境遇の人にしか話せない悩みを打ち明けたり、アドバイスをもらえたりするとてもいい機会です。悩んでいるのは自分だけではないとわかり、少し肩の力が抜けるような気がしました。

さて、A君の話に戻りますが、A君が幼稚園の年中さんのときのことです。「幼稚園のお友達のママのおなかが大きいんだよ。」「中に赤ちゃんがいるんでしょう？」という話を聞いたとき、そろそろ彼の生い立ちについて話す真実告知の時期が来たと思いました。一般の真実告知はできるだけ年齢が小さいうちから、そのときの年齢の理解度に応じた話し方を行うといいと言われています。その方が思春期になって初めて伝える場合より精神的ショックが少ないからです。

A君と２人で家にいたとき、話の流れで乳児院の話題になったので、「普通赤ちゃんは病院で生まれてすぐにお母さんと一緒に家に帰ってくるんだけど、Aちゃんはママのおなかじゃなくて、ほかのお母さんのおなかから生まれてきて、そのお母さんはどうしてもあなたと一緒に帰れない事情があったからAちゃんは乳児院で育ったんだよ。」と話しました。すると、A君は「えっ、そうなの。」と小さな声でつぶやき、それほどショックな様子は見られませんでした。

しかし、急に「僕が大人になったら、ママに指輪やネックレスを買ってあげる」などといって私を喜ばせようとしたので、Aちゃんなりに私のそばにいたいという意思表示だったのかもしれません。そのけなげな姿がいじらくして、今はうちのパパとママがAちゃんとお父さんお母さんだから、これからもずっとこの家にいていたんだよと言ったら安心したようで、その日以来その話はしなくなりました。

そんなA君が小学校に上がるころ、５歳年下の弟ができました。大分子育てにも余裕ができたことと、兄弟がいるほうがA君の成長や将来のためになるだろうと思ったことから、２人目の委託を希望したのです。当時１歳になったばかりのB君です。B君との乳児院での交流はかつてのA君より手ごわく、一緒に過ごしていてもいつもかたい表情で緊張しているような子供でした。長期外泊となって我が家に来てからも、おとなしくいつも私の後追いをして泣いてばかりでしたが、それもつかの間のことで、時期に好奇心旺盛でいたずら好き、自分のやりたいことは叱られても我を通す本来の姿を見せてくれるようになりました。このような変化は私たち里親にとって何よりの喜びです。子供たちはこのように新しい環境を受け入れてたくましく生きていく力があるに違いありません。

最後に、本日はこのように体験発表をさせていただくことで、子育てをしてきた10年間を振り返るよい機会となりました。まだこれから先、育児の苦労は尽きませんが、子育てをしない人生を選んでいたら、決して味わうことができなかった経験です。苦労だけでなく、多くの楽しみや喜びを与えてくれます。これからも彼らの成長を見守るとともに、私自身も里親として成長し、人生をより豊かなものにしていきたいと思います。

19　母性は育つ

【里母】

私は残念ながら子育て経験はございません。主人と猫２匹と暮らしておりました。学校を卒業してからIT業界で働いております。そんな私がなぜ里親を始めたのかという背景を少しお話しさせていただこうと思います。

結婚してすぐに主人が上場を目指しました。自分もそうでしたが、仕事のほうがどちらかといえば好きだったので、子供は二の次。いずれ授かるものだろうと思って仕事をしてまいりましたが、一向に恵まれないので、40歳前ぐらいから不妊治療を始めました。不妊治療の間のことは非常につらかった記憶があります。今日はそんなお話ではないのでいたしませんが、なぜ私は子供に恵まれないんだろう。こんなに子供が欲しいと思っている私には恵まれないのに、世の中では家庭環境に恵まれず死に至ってしまう子供たちがいるなんて、なんて理不尽な世の中なんだろうと思っていました。しかし、ふと考えてみると、私はもともと家族に血縁関係がそれほど重要ではないと子供のころから思っていて、そんな私に子供が恵まれず、世の中には家庭に恵まれない子供たちがいるということは、もしかすると神様は私に、子供たちの親になればいいんじゃないのと言われているのではないかと思うようになりました。

そこで私は里親登録をしに出かけました。正直申し上げて、私は子供が欲しかったので養子縁組をしたいと思っておりましたが、養子縁組をするには夫婦とも50歳未満でなければならず、私が里親になろうと思い立ったときには、残念ながらもう既にその条件を満たすことは難しいので、養育家庭の方を勧められ、私たちも養育家庭になることに決めました。

研修中は、この子たちのために何かをできる親になれたらいいなと、自己中心ではなく、子供中心の親になれるといいなというふうに思うようになりました。

そんな私が認定していただいて１年経ってから、最初は「中学生の女の子はどうですか。」とお声掛けをいただきました。しかし、私の成長とともに子供も一緒に成長してもらえるような、もう少し小さい年齢のお子さんを最初は養育させていただきたいと思って、お断りをさせていただきました。その後、二度ともうお声がかからないんじゃないかと随分心配しました。数ヵ月後、何人かお話をいただいても、なかなか御縁がなかったのですが、ちょうど去年の12月、今の娘と出会いました。

赤ちゃん返りがあったり、試し行動があったりすると研修の中でも聞きましたが、子育て経験のない私にとっては、これが赤ちゃん返りなのか、試し行動なのか、正直わかりません。お預かりして最初の２週間は天使のようでした。主人に、「子供がいる家庭って、なんて穏やかで、幸せなんだろうね」と言ったことを覚えています。覚えていますということは、過去のことです。先ほども先輩の里親さんに、「じゃあ、今はかわいいころね。」と言われたんですけれども、今は、素直にうんと言えない私がおります。

娘が来てから、毎日のように抱っことねだります。ところが、51歳の私は12キロの子

を５分抱えるのがやっとです。そんな私に抱っこを要求されても、正直、「ごめん、無理」の毎日でした。泣きやませることができないので、私はマンションの上と下と横の御近所さんに菓子箱を持って御挨拶に参りました。そうすると、当然と思われるかもしれませんが、どの御家庭も笑顔で「大丈夫よ。うちにはもうちょっと上のお姉さんがいるから、よかったら遊びにおいで。」と声をかけてくださる方や、「うちなんてもっとひどいから。」と皆さん本音でおっしゃってくださる方ばかりでした。私の気づかないところまで子供のことを考える大人がこんなふうに周りにいるんだなということを初めて知りました。

子供がいるとこんなに大人は違うのかと思うのは、挨拶をしたときにも感じます。私だけのときには、「おはようございます。」と挨拶をすれば、「おはようございます。」と無表情に返ってきますが、子供がいると「おはようございます。」と挨拶すると、もう10人が10人、絶対笑顔なんです。私は娘が来ただけで、これだけ、赤の他人の人たちとコミュニケーションがとれ、温かい気持ちになれるんだということを学びました。

母性とは育つものなんだなと思います。抱っこしてと言っているのは、本当に抱っこをしてほしいわけではなく、不安だったり、寂しかったり、悲しかったりするから、誰かの愛情を確認したい。その手段が抱っこしてという表現であり、抱き締められることによって安心するのだという意味がやっとわかるようになりました。
なので、抱っこは無理と思ったときには、彼女の真意を察して、ほかのことを誘導してあげれば、10回中８回ぐらいは抱っこではなく、ほかのことで我慢してくれるようになりました。

そんなふうにしながら、仕事しかできなかった私も、少しずつ人の親に近づいていけているんだと思います。女性が結婚する年齢が遅くなり、高齢出産も35歳から40歳ぐらいに上がってきたとはいえ、私のようにとりおくれてしまった人や、あるいは40歳前後で高齢出産を頑張ろうと思っても、既にタイミングを逃してしまっている女性もたくさんいるだろうと思います。そういう御家庭は、本来なら20代、30代で皆さんが経験することを今から経験し始めても遅くないのではないかなというふうに思います。私のような者もおり、私よりもっと子育てに向いている方もいらっしゃると思いますので、そういう方々にも里親になっていいのだよと働きかけられてもいいんじゃないかなというふうに思っています。

母性は育つと言いましたが、子供を育てながら私は自分の悪いところや醜いところ、至らないところがたくさん見えてくるようになりました。こんな嫌なやつだったんだなと自分で自分を思うのは悲しいときもあるのですけれども、残り30年ぐらいの人生に、この嫌な自分を改善することができるんだったら、これはラッキーだなと思っています。

この小さな背中が私の残りの30年を、嫌なところを直して、素敵なおばあさんに育ててくれるのだと思って、私たちはこれからも里親を続けていきたいと思っております。

御清聴どうもありがとうございました。

平成 27 年度　養育家庭体験発表会　参加者数

開催日	開催場所	区市町村	担当児童相談所	参加人数				
				養育家庭・フレンドホーム	都区市町村職員	民生児童委員主任児童委員	一般・その他	合計
平成27年 9月13日	文京シビックセンター4階　シルバーホール	文京区	センター	3	2	3	57	65
平成27年10月 3日	くにたち市民芸術小ホール　スタジオ	国立市	立川	5	14	1	13	33
平成27年10月 8日	青梅市役所2階会議室	青梅市	立川	1	17	17	9	44
平成27年10月16日	西東京市住吉会館ルピナス2階研修室	西東京市	小平	2	4	5	15	26
平成27年10月17日	町田市生涯学習センター7階ホール	町田市	八王子	31	17	3	74	125
平成27年10月19日	千代田区立児童・家庭支援センター　神田さくら館7階研修室	千代田区	センター	1	4	0	9	14
平成27年10月22日	小金井市役所第2庁舎801会議室	小金井市	小平	2	1	1	18	22
平成27年10月25日	中央区立教育センター 5階視聴覚ホール	中央区	センター	2	1	3	14	20
平成27年10月26日	台東区役所1001大会議室	台東区	センター	0	12	48	53	113
平成27年10月26日	昭島市役所204会議室	昭島市	立川	4	18	3	9	34
平成27年10月27日	奥多摩町子ども家庭支援センターきこりん	奥多摩町	立川	5	16	3	7	31
平成27年10月29日	三鷹産業プラザ	三鷹市	杉並	1	12	0	17	30
平成27年10月29日	イオンモール多摩平の森イオンホール	日野市	八王子	8	14	13	27	62
平成27年10月29日	らぷらす　11階	世田谷区	世田谷	2	34	3	43	82
平成27年11月 2日	清瀬市児童センターころぽっくる	清瀬市	小平	1	1	0	30	32
平成27年11月 2日	日の出町役場3階	日の出町	立川	1	11	8	4	24
平成27年11月 4日	豊島区民センター文化ホール	豊島区	センター	1	7	41	89	138
平成27年11月 5日	新宿区立子ども総合センター　3階研修室	新宿区	センター	1	7	41	36	85
平成27年11月 5日	板橋区立グリーンホール	板橋区	北	1	0	0	40	41
平成27年11月 5日	あきる野市役所　503・504・505会議室	あきる野市	立川	4	12	25	3	44
平成27年11月 5日	地域振興プラザ	稲城市	多摩	5	18	0	6	29
平成27年11月 6日	東久留米市役所1階市民プラザ	東久留米市	小平	1	0	28	26	55
平成27年11月 7日	アクロスあらかわ	荒川区	北	2	1	13	25	41
平成27年11月 7日	ユートリヤ　すみだ生涯学習センター	墨田区	江東	1	3	2	36	42
平成27年11月10日	たづくり	調布市	多摩	6	32	4	13	55
平成27年11月11日	市民総合センター3階集会室	武蔵村山市	小平	0	6	3	16	25
平成27年11月12日	健康プラザかつしか小ホール	葛飾区	足立	3	6	4	24	37
平成27年11月14日	光が丘区民センター3階 多目的ホール	練馬区	センター	1	3	7	33	44
平成27年11月14日	目黒区総合庁舎1階E会議室	目黒区	品川	0	0	7	31	38
平成27年11月14日	福祉センター　2階集会室	福生市	立川	2	10	4	14	30
平成27年11月14日	阿佐ヶ谷地域区民センター	杉並区	杉並	2	3	0	25	30
平成27年11月14日	L ホール	国分寺市	小平	17	2	4	18	41
平成27年11月15日	足立区こども支援センターげんき　5階研修室3	足立区	足立	6	9	0	36	51
平成27年11月16日	東大和市役所　会議棟2階	東大和市	小平	1	2	0	12	15
平成27年11月16日	たっち	府中市	多摩	0	13	1	17	31
平成27年11月17日	瑞穂町子ども家庭支援センター　ひばり	瑞穂町	立川	3	11	5	11	30
平成27年11月17日	たまっこ	多摩市	多摩	5	15	4	29	53
平成27年11月18日	中野区役所 7階会議室	中野区	杉並	0	1	0	25	26
平成27年11月19日	ケアコミュニティー美竹の丘	渋谷区	センター	1	4	0	33	38
平成27年11月19日	武蔵野プレイス	武蔵野市	杉並	1	3	5	27	36
平成27年11月20日	サンパルネ　駅ビル2階	東村山市	小平	1	2	3	27	33
平成27年11月21日	品川区立荏原第五地域センター　第1集会室	品川区	品川	3	4	29	18	54
平成27年11月24日	クリエイトホール5階	八王子市	八王子	10	17	8	79	114
平成27年11月26日	中央公民館	小平市	小平	1	1	1	13	16
平成27年11月28日	男女平等参画センター　リーブラ1階	港区	センター	0	9	1	134	144
平成27年11月28日	赤羽文化センター	北区	北	2	3	0	35	40
平成27年11月28日	大田区役所201・202会議室	大田区	品川	1	1	28	21	51
平成27年11月28日	立川市子ども未来センター　201・202会議室	立川市	立川	1	13	12	26	52
平成27年11月28日	狛江市役所（市役所4階特別会議室）	狛江市	世田谷	2	8	12	21	43
平成27年11月29日	羽村市生涯学習センターゆとろぎ　レセプションホール	羽村市	立川	5	11	17	71	104
平成27年11月29日	南砂子ども家庭支援センター	江東区	江東	1	0	0	64	65
平成27年12月15日	タワーホール船堀　小ホール	江戸川区	江東	4	17	54	55	130
合　　計				164	432	474	1,588	2,658

平成 27 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問		9/13 文京区	10/3 国立市	10/8 青梅市	10/16 西東京市	10/17 町田市	10/19 千代田区	10/22 小金井市	10/25 中央区	10/26 台東区	10/26 昭島市	10/27 奥多摩町	10/29 三鷹市	10/29 日野市
①性別	男性	7	1	9	0	14	7	6	2	13	5	2	2	8
	女性	20	13	15	15	60	7	14	8	65	13	6	16	34
	不明・無回答	0	0	0	0	1	0	0	0	6	1	0	1	1
②年齢	～20 代	1	0	1	3	14	3	6	2	2	1	0	1	2
	30 代	5	2	1	2	13	3	3	2	6	1	1	3	10
	40 代	11	5	3	2	22	1	3	2	5	3	1	6	4
	50 代	3	6	1	1	15	4	3	1	16	8	1	8	15
	60 代	7	0	14	5	4	3	4	3	33	4	5	0	5
	70 代～	0	1	4	2	6	0	1	0	19	0	0	1	5
	不明・無回答	0	0	0	0	1	0	0	0	3	2	0	0	2
③所属	一般	13	6	3	6	33	2	10	1	8	7	0	4	13
	民生児童委員	3	0	15	4	2	0	1	1	41	1	2	0	6
	主任児童委員	0	0	2	1	1	0	0	2	7	1	1	0	5
	養育家庭	3	2	0	0	13	0	1	1	0	2	1	0	5
	ﾌﾚﾝﾄﾞﾎｰﾑ	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0
	都職員	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	2	2	2
	区市町村職員	1	2	1	3	4	3	0	1	11	5	0	10	1
	学生	1	0	1	0	13	1	2	2	1	0	0	1	2
	その他	4	3	1	0	6	6	4	1	15	1	2	1	6
	不明・無回答	1	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	3
2．養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）														
	区報・市報・ホームページ	13	6	12	6	11	5	9	4	36	6	5	7	16
	ポスターで	3	0	1	1	3	3	3	3	7	1	2	1	1
	児相・子ども家庭支援センター	8	4	9	6	18	6	6	3	30	6	3	10	18
	児童福祉施設	0	2	2	2	5	0	4	0	3	4	0	4	7
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	5	2	0	0	5	2	3	2	2	0	0	1	1
	テレビ番組	1	0	0	0	2	2	1	0	6	0	0	1	2
	テレビ CM	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	新聞・雑誌	4	0	1	1	2	2	2	1	4	1	0	0	5
	知人・友人	5	2	3	2	16	1	1	0	6	2	0	5	3
	図書	0	2	0	0	1	1	1	0	2	0	0	0	1
	公開講座	0	1	2	1	18	0	3	0	0	1	0	2	2
	その他	4	0	1	4	8	1	4	1	13	1	0	0	9
	不明・無回答	1	0	1	0	5	1	0	0	1	2	0	0	2
3．どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）														
	区報・市報	5	6	14	4	7	1	5	2	26	6	3	8	8
	都報	2	1	1	0	4	0	2	1	4	0	0	0	2
	ポスター	3	0	1	0	2	0	3	2	2	1	1	2	3
	チラシ	5	3	3	7	22	7	8	4	22	4	3	4	23
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	2	1	0	1	1	1	7	1	3	1	0	1	1
	知人に勧められて	7	3	4	1	21	3	3	0	6	4	0	3	4
	過去に参加	2	1	2	2	7	0	7	4	14	2	1	2	13
	問い合わせた	1	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0
	その他	6	1	3	3	19	3	1	0	18	4	3	0	5
	不明・無回答	1	0	1	0	6	0	0	0	3	1	1	3	2
4．今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）														
	養育家庭になりたいと思っていたから	2	4	0	1	8	2	2	2	1	2	0	2	4
	養育家庭制度に興味・関心があったから	17	5	13	5	28	7	14	6	25	6	2	7	13
	子育てに関わる話が聞けると思ったから	4	4	9	5	14	4	5	0	28	4	3	5	11
	仕事や学問などの参考にするため	6	5	3	2	33	8	9	2	27	5	2	8	15
	その他	4	1	1	2	7	1	0	0	13	3	3	1	2
	不明・無回答	0	0	0	1	6	0	0	0	1	0	1	1	5
5．相談コーナーを利用されますか。または、利用しましたか。														
	はい	4	1	0	0	2	1	0	2	3	2	0	1	3
	いいえ	12	7	13	13	52	8	15	8	52	10	2	12	22
	未定	9	3	6	2	11	5	4	0	24	3	2	5	12
	不明・無回答	2	3	5	0	10	0	1	0	5	4	4	1	6
6．今日の体験発表会の感想をお聞かせください。														
	とても良かった	5	12	11	9	55	10	16	6	40	10	6	12	24
	良かった	16	0	8	6	16	4	3	4	31	7	1	6	17
	普通	1	0	2	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0
	あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明・無回答	5	2	3	0	4	0	1	0	9	2	0	1	2
感想数		19	8	14	9	42	7	17	5	35	8	2	10	26
ｱﾝｹｰﾄ回答		27	14	24	15	75	14	20	10	84	19	8	19	43
参加者総数		65	33	44	26	125	14	22	20	113	34	31	30	62

平成 27 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問		10/29 世田谷区	11/2 清瀬市	11/2 日の出町	11/4 豊島区	11/5 新宿区	11/5 板橋区	11/5 あきる野市	11/5 稲城市	11/6 東久留米市	11/7 荒川区	11/7 墨田区	11/10 調布市	11/11 武蔵村山市
①性別	男性	9	2	2	8	7	0	7	4	9	10	8	6	1
	女性	32	26	12	55	47	40	22	12	41	28	18	29	9
	不明・無回答	1	0	1	5	3	1	0	0	5	0	2	0	1
②年齢	～20 代	14	2	1	5	11	0	1	3	5	0	7	0	0
	30 代	8	6	2	4	6	8	2	1	2	2	5	4	3
	40 代	8	10	1	10	4	21	2	5	3	11	5	9	0
	50 代	9	7	0	12	7	5	6	4	7	8	9	10	1
	60 代	1	1	7	22	10	4	12	1	20	12	1	8	4
	70 代～	2	0	3	10	5	3	6	0	8	5	0	2	3
	不明・無回答	0	2	1	5	14	0	0	2	10	0	1	2	0
③所属	一般	12	7	3	12	3	32	2	6	4	18	10	10	6
	民生児童委員	1	0	6	34	24	0	20	0	25	11	0	1	2
	主任児童委員	1	0	1	7	5	0	3	0	3	2	2	3	0
	養育家庭	0	1	0	1	0	1	2	0	1	2	1	3	0
	ﾌﾚﾝﾄﾞﾎｰﾑ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	都職員	3	1	1	0	2	0	1	1	0	1	1	2	0
	区市町村職員	8	0	3	7	3	0	0	9	0	0	2	13	1
	学生	13	1	0	2	9	0	0	0	2	1	8	0	0
	その他	4	18	0	1	7	8	1	0	2	2	3	3	0
	不明・無回答	0	0	1	4	4	0	0	0	18	1	1	0	2
2．養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）														
	区報・市報・ホームページ	13	2	6	31	28	9	18	11	38	18	8	12	4
	ポスターで		5	1	3	3	2	2	2	8	3	3	3	2
	児相・子ども家庭支援センター	6	6	10	24	16	8	15	4	13	8	6	11	0
	児童福祉施設	5	3	3	1	9	0	4	0	7	2	3	3	2
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	1	0	0	4	4	3	1	0	1	7	6	0	0
	テレビ番組	1	6	2	1	7	9	2	0	3	4	0	3	0
	テレビ CM	0	1	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0
	ラジオ	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	新聞・雑誌	1	4	1	3	3	2	1	0	1	4	3	4	0
	知人・友人	1	4	0	3	3	4	1	0	0	3	2	3	1
	図書	3	0	2	1	8	1	0	0	0	0	0	2	0
	公開講座	8	0	1	2	9	0	2	0	0	1	5	1	0
	その他	9	9	1	0	14	13	5	1	11	10	3	7	3
	不明・無回答	2	0	0	14	0	2	0	0	0	0	1	3	0
3．どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）														
	区報・市報	8	1	7	17	12	4	12	7	13	5	1	12	4
	都報	0	0	3	2	2	1	2	2	2	2	1	0	0
	ポスター	3	1	0	3	2	1	1	1	5	2	0	2	2
	チラシ	13	4	4	17	16	4	9	4	22	14	12	7	2
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	1	0	0	4	1	1	0	0	1	5	2	2	1
	知人に勧められて	2	9	1	1	4	3	1	1	2	6	2	3	4
	過去に参加	1	1	3	0	14	4	10	1	10	2	5	7	0
	問い合わせた	0	0	0	0	2	0	0	0	1	2	0	0	0
	その他	17	12	2	14	16	28	3	0	21	8	3	10	1
	不明・無回答	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	4	1	0
4．今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）														
	養育家庭になりたいと思っていたから	5	0	0	6	3	2	1	3	1	3	3	5	1
	養育家庭制度に興味・関心があったから	16	4	4	28	23	11	10	5	9	14	11	9	6
	子育てに関わる話が聞けると思ったから	6	12	5	19	11	14	15	4	13	14	5	15	2
	仕事や学問などの参考にするため	16	17	5	9	27	7	5	4	13	8	12	9	3
	その他	4	2	1	9	1	8	3	0	21	8	3	2	2
	不明・無回答	0	0	1	1	0	1	2	1	0	1	2	3	0
5．相談コーナーを利用されますか。または、利用しましたか。														
	はい	1	0	0	1	1	1	1	1	0	1	1	3	0
	いいえ	31	18	8	42	42	25	16	5	44	20	15	18	5
	未定	6	8	4	13	12	13	7	9	0	12	6	10	1
	不明・無回答	4	2	3	12	2	2	5	1	11	5	6	4	5
6．今日の体験発表会の感想をお聞かせください。														
	とても良かった	27	18	11	36	33	26	16	5	17	24	11	15	8
	良かった	9	9	3	28	10	14	10	8	27	7	11	13	3
	普通	1	0	0	1	4	0	0	1	5	1	2	1	0
	あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
	良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明・無回答	5	1	1	3	10	1	3	2	5	6	3	6	0
感想数		32	6	13	30	46	26	22	12	31	28	10	13	9
ｱﾝｹｰﾄ回答		42	28	15	68	57	41	29	16	55	38	28	35	11
参加者総数		82	32	24	138	85	41	44	29	55	41	42	55	25

平成 27 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問		11/12 葛飾区	11/14 練馬区	11/14 目黒区	11/14 福生市	11/14 杉並区	11/14 国分寺市	11/15 足立区	11/16 東大和市	11/16 府中市	11/17 瑞穂町	11/17 多摩市	11/18 中野区	11/19 渋谷区
①性別	男性	9	5	7	6	5	6	8	5	7	3	3	1	3
	女性	18	31	24	11	22	10	20	8	13	12	24	18	29
	不明・無回答	1	2	0	1	0	0	1	2	0	0	4	0	0
②年齢	～20 代	2	7	12	0	8	4	3	2	7	2	1	3	15
	30 代	8	10	1	2	5	0	5	1	0	3	2	5	6
	40 代	7	8	11	3	8	3	11	2	4	1	9	7	5
	50 代	5	9	5	2	3	3	5	5	3	2	10	4	5
	60 代	4	2	1	7	3	4	3	2	5	7	3	0	1
	70 代～	1	2	1	3	0	2	2	1	1	0	2	0	0
	不明・無回答	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0
③所属	一般	14	17	10	8	17	7	17	3	9	4	10	12	11
	民生児童委員	3	2	1	3	0	3	0	0	1	4	0	0	0
	主任児童委員	0	5	6	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0
	養育家庭	1	1	0	1	2	0	1	1	0	0	0	0	1
	ﾌﾚﾝﾄﾞﾎｰﾑ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	都職員	1	2	0	1	0	2	0	1	2	3	2	0	1
	区市町村職員	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	4	0	1
	学生	2	6	13	0	6	2	3	0	6	0	0	0	13
	その他	5	1	0	1	2	1	6	6	2	3	9	6	5
	不明・無回答	2	3	1	1	0	0	2	3	0	0	1	1	0
2．養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）														
	区報・市報・ホームページ	18	10	10	4	10	8	9	3	5	5	15	6	9
	ポスターで	1	5	0	1	0	0	2	1	0	1	0	4	2
	児相・子ども家庭支援センター	6	7	10	10	3	4	9	4	6	9	10	1	2
	児童福祉施設	4	4	0	1	3	1	2	5	5	4	0	3	0
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	5	6	5	1	2	1	5	0	1	2	0	4	4
	テレビ番組	0	3	2	1	2	0	0	0	0	0	3	0	1
	テレビ CM	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
	ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	新聞・雑誌	0	1	1	2	1	1	0	0	0	2	3	1	0
	知人・友人	3	2	3	2	4	2	0	4	3	1	2	7	0
	図書	1	2	1	0	1	0	0	0	1	1	2	1	3
	公開講座	2	3	5	0	4	0	1	0	3	0	1	2	1
	その他	5	9	11	1	4	5	6	1	7	2	6	5	12
	不明・無回答	0	0	1	1	0	0	2	3	0	0	0	0	3
3．どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）														
	区報・市報	10	5	2	3	5	7	3	4	4	3	11	7	5
	都報	4	0	0	1	0	0	5	1	0	1	2	1	0
	ポスター	1	6	1	1	0	0	0	1	0	1	9	0	3
	チラシ	8	10	16	6	10	3	8	4	5	6	1	5	10
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	3	6	4	1	5	2	4	0	1	1	1	2	2
	知人に勧められて	2	2	2	4	3	2	0	3	1	2	0	1	3
	過去に参加	4	5	7	2	2	1	5	2	3	4	8	1	2
	問い合わせた	0	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0
	その他	5	7	8	4	4	4	7	2	8	2	8	4	8
	不明・無回答	0	2	0	1	0	1	1	3	0	0	0	1	1
4．今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）														
	養育家庭になりたいと思っていたから	5	0	7	0	7	1	3	0	2	1	5	2	5
	養育家庭制度に興味・関心があったから	16	16	11	10	11	10	15	8	5	5	6	8	11
	子育てに関わる話が聞けると思ったから	2	13	8	9	8	3	7	2	2	2	11	8	7
	仕事や学問などの参考にするため	9	9	13	4	6	4	7	4	10	7	10	6	16
	その他	2	2	2	0	0	1	1	3	2	1	1	4	0
	不明・無回答	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0
5．相談コーナーを利用されますか。または、利用しましたか。														
	はい	2	1	7	0	2	2	2	0	0	1	0	0	0
	いいえ	10	29	17	7	10	11	8	9	10	10	17	11	22
	未定	12	0	6	8	12	2	15	3	4	1	7	6	5
	不明・無回答	4	8	1	3	3	1	4	3	6	3	3	2	5
6．今日の体験発表会の感想をお聞かせください。														
	とても良かった	17	24	20	12	9	12	19	9	7	11	9	15	25
	良かった	7	10	10	3	8	3	8	4	8	3	10	4	7
	普通	1	0	1	0	7	1	0	0	3	1	2	0	0
	あまり良くなかった	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0
	良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明・無回答	3	4	0	3	2	0	2	2	2	0	4	0	0
感想数		19	3	20	10	14	12	11	10	9	6	18	13	19
ｱﾝｹｰﾄ回答		28	39	31	18	27	16	29	15	20	15	27	19	32
参加者総数		37	44	38	30	30	41	51	15	31	30	53	26	38

平成 27 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問		11/19 武蔵野市	11/20 東村山市	11/21 品川区	11/24 八王子市	11/26 小平市	11/28 港区	11/28 北区	11/28 大田区	11/28 立川市	11/28 狛江市	11/29 羽村市	11/29 江東区	12/15 江戸川区	総計
①性別	男性	2	2	6	16	2	6	6	10	7	5	17	10	32	338
	女性	26	20	46	57	14	30	23	36	27	19	61	25	70	1,351
	不明・無回答	0	11	2	1	0	0	1	2	1	1	1	0	1	61
②年齢	～20 代	5	6	16	31	3	7	13	5	6	3	1	12	8	267
	30 代	4	5	2	16	2	8	3	4	4	2	16	4	9	232
	40 代	5	3	4	10	6	10	7	12	8	5	38	9	18	371
	50 代	7	2	6	7	3	2	4	8	6	4	9	6	25	317
	60 代	5	3	18	8	2	5	2	15	7	10	10	3	30	350
	70 代～	1	2	8	1	0	2	0	4	3	1	3	0	12	138
	不明・無回答	1	12	0	1	0	2	1	0	1	0	2	1	1	71
③所属	一般	15	13	2	17	5	23	14	11	16	8	58	22	20	594
	民生児童委員	3	1	27	4	0	3	0	20	10	9	13	0	45	352
	主任児童委員	2	1	2	3	1	0	0	8	0	2	0	0	3	84
	養育家庭	0	0	3	1	1	0	2	0	0	0	3	1	4	63
	ﾌﾚﾝﾄﾞﾎｰﾑ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5
	都職員	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	47
	区市町村職員	1	0	3	0	0	1	1	1	1	0	1	0	17	123
	学生	3	2	13	39	0	6	12	5	6	2	0	10	1	210
	その他	4	3	3	7	7	2	1	1	1	4	0	1	12	192
	不明・無回答	0	13	0	1	1	1	0	1	1	0	3	1	1	76
2. 養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）															
	区報・市報・ホームページ	9	2	18	17	1	6	9	19	18	15	21	8	50	639
	ポスターで	2	1	3	2	2	4	2	2	3	4	11	4	6	129
	児相・子ども家庭支援センター	7	5	8	13	2	9	1	9	8	10	18	4	24	453
	児童福祉施設	8	9	3	5	6	2	2	5	3	5	4	2	1	162
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	3	2	1	3	1	3	3	4	3	1	3	2	2	117
	テレビ番組	0	2	3	8	1	3	2	2	0	1	9	3	6	105
	テレビ CM	0	0	0	3	1	0	0	0	1	0	2	0	0	18
	ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5
	新聞・雑誌	1	1	1	2	0	1	1	1	1	0	5	1	3	80
	知人・友人	6	1	9	8	2	4	2	5	2	1	16	5	6	171
	図書	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	43
	公開講座	3	1	12	25	0	5	11	5	6	3	0	7	5	164
	その他	4	2	16	12	1	5	1	12	3	1	26	9	29	327
	不明・無回答	0	13	1	3	1	1	0	1	3	0	5	0	5	78
3. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）															
	区報・市報	6	2	11	7	1	4	7	6	11	12	15	1	25	375
	都報	0	1	0	0	1	0	2	1	1	2	0	1	4	62
	ポスター	2	0	1	4	2	7	1	1	5	1	6	2	0	98
	チラシ	6	7	15	18	3	12	12	12	14	11	22	9	30	506
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	1	2	0	6	1	2	0	5	3	3	1	4	0	98
	知人に勧められて	10	2	0	3	4	6	1	6	5	0	10	5	5	180
	過去に参加	1	2	11	10	3	1	1	5	5	7	7	1	15	230
	問い合わせた	0	1	1	1	0	1	0	1	1	0	1	1	2	27
	その他	0	3	26	36	0	3	10	17	4	3	31	12	32	449
	不明・無回答	5	11	1	4	1	2	0	1	2	0	3	2	3	72
4. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）															
	養育家庭になりたいと思っていたから	3	3	0	2	2	3	4	6	5	5	3	4	1	142
	養育家庭制度に興味・関心があったから	19	10	18	8	7	19	11	22	17	9	33	9	37	649
	子育てに関わる話が聞けると思ったから	9	5	11	19	3	6	9	10	9	6	32	5	33	470
	仕事や学問などの参考にするため	5	4	23	44	3	11	14	11	10	9	12	16	27	554
	その他	1	0	12	11	1	3	0	8	2	0	12	0	7	178
	不明・無回答	0	11	1	0	0	1	0	1	1	0	8	4	6	64
5. 相談コーナーを利用されますか。または、利用しましたか。															
	はい	0	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	3	62
	いいえ	14	11	34	56	8	21	16	23	18	15	46	17	75	1,040
	未定	12	5	16	14	4	13	11	15	11	7	24	13	16	429
	不明・無回答	2	16	3	2	3	1	2	9	5	2	8	4	9	215
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。															
	とても良かった	12	12	34	42	8	23	20	24	21	13	58	16	60	995
	良かった	13	8	15	25	3	7	7	20	12	9	13	14	32	534
	普通	1	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	1	48
	あまり良くなかった	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明・無回答	2	12	4	2	5	5	3	4	2	3	8	5	10	162
感想数		19	18	39	33	6	14	23	28	21	12	52	18	48	975
ｱﾝｹｰﾄ回答		28	22	54	74	16	36	30	48	35	25	79	35	103	1,736
参加者総数		36	33	54	114	16	144	40	51	52	43	104	65	130	2,658

養育家庭制度は、いろいろな理由で親と一緒に暮らすことのできない子供たちを、養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生活し、養育していただく里親制度です。

【ほっとファミリー(養育家庭)を、詳しく知りたい。】

★ 申し込み資格は？

○ 都内にお住まいで 25 歳以上 65 歳未満の御夫婦。

※ただし、65 歳以上であっても短期条件付・レスパイト限定付にお申し込みできます。

配偶者がいない場合は、子供の養育経験又は保育士や看護師の資格があり、かつ、養育の補助ができる 20 歳以上の子又は父母等が同居している方。

○ 居室が 2 室 10 畳以上ある。

★ どのような子供を預かるの？

○ 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、おおむね 18 歳までの子供です。

★ 預かる期間は？

○ 原則として 1 か月以上です。

○ 2 年を超える場合、2 年ごとに子供を継続して預かるかどうかの意思を確認させていただきます。

★ 養育に係る費用は？

○ 日常生活や教育費などの養育費は、児童養護施設等に入所している児童と同等の額が支払われます。

○ 養育家庭への手当が支払われます。

★ 養育に必要な支援は？

○ 児童相談所が中心となって支援を行います。

○ 養育に疲れた場合には、子供の養育から一時的に離れて休息できる制度があります。

○ ほっとファミリー同士が集う相互交流の機会があります。

○ 経験豊富なほっとファミリーが電話で相談に応じます。

○ 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

【養育家庭制度に関するお問合せ先】

東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課里親担当

〒163-8001　新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話　０３－５３２０－４１３５

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html

こちらのホームページもご覧下さい。
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html

養育家庭体験発表集
平成28年9月発行

登 録 番 号(28)160

発　行　東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話03(5320)4135　ﾌｧｸｼﾐﾘ03(5388)1406
印刷所　東京コロニー 東京都大田福祉工場
東京都大田区大森西二丁目22番26号
電話03(3762)7611